

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年6月27日

【事業年度】 第68期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

【会社名】 八洲電機株式会社

【英訳名】 Yashima Denki Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 落合 憲

【本店の所在の場所】 東京都港区新橋三丁目1番1号

【電話番号】 03(3507)3711(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 今町 和至

【最寄りの連絡場所】 東京都港区新橋三丁目1番1号

【電話番号】 03(3507)3711(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 今町 和至

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (百万円)	130,866	129,370	107,384	95,409	75,173
経常利益 (百万円)	2,325	2,221	1,176	1,081	1,813
当期純利益 (百万円)	1,251	1,203	632	577	889
包括利益 (百万円)	-	-	-	469	1,003
純資産額 (百万円)	10,741	11,347	12,009	12,206	13,768
総資産額 (百万円)	65,174	54,503	53,849	42,126	49,088
1株当たり純資産額 (円)	554.72	597.78	611.33	616.31	614.15
1株当たり当期純利益金額 (円)	69.41	66.74	34.09	30.83	44.52
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	15.35	19.78	21.25	28.10	27.25
自己資本利益率 (%)	13.03	11.58	5.69	4.96	7.06
株価収益率 (倍)	-	-	9.94	10.87	8.71
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,718	2,911	1,005	945	1,132
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	207	435	203	184	941
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,187	751	125	256	727
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	3,706	5,431	6,104	6,605	7,522
従業員数 (名)	872	900	921	911	956
[ほか、平均臨時雇用者数]	[44]	[43]	[34]	[25]	[19]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため、算出しておりません。

3 株価収益率は、第65期までは株式を上場していないため、算出しておりません。

4 従業員数は、就業人員数を表示しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (百万円)	119,093	119,185	98,478	86,222	71,350
経常利益 (百万円)	1,836	2,234	1,064	1,015	1,509
当期純利益 (百万円)	1,051	1,479	647	591	1,280
資本金 (百万円)	1,139	1,139	1,176	1,176	1,585
発行済株式総数 (千株)	18,220	18,220	18,720	19,207	21,782
純資産額 (百万円)	8,285	9,343	10,038	10,477	12,389
総資産額 (百万円)	56,350	44,096	48,129	36,702	44,621
1株当たり純資産額 (円)	459.43	518.15	536.26	545.50	568.83
1株当たり配当額 (円)	12.50	13.00	13.00	13.00	15.00
(1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	58.32	82.05	34.91	31.59	64.04
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	14.70	21.19	20.86	28.55	27.77
自己資本利益率 (%)	13.19	16.79	6.69	5.77	11.20
株価収益率 (倍)	-	-	9.71	10.60	6.06
配当性向 (%)	21.43	15.84	37.24	41.15	23.42
従業員数 (名)	606	622	635	635	685
[ほか、平均臨時雇用者数]	[40]	[51]	[50]	[47]	[48]

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため、算出しておりません。
3 株価収益率は、第65期までは株式を上場していないため、算出しておりません。
4 従業員数は、就業人員数を表示しております。
5 第68期の1株当たり配当額15.00円には東京証券取引所市場第一部指定の記念配当2.00円を含んでおります。

2 【沿革】

昭和21年8月 東京都千代田区神田須田町において八洲電機商会を創業
昭和22年4月 株式会社八洲電機商会に組織変更
昭和25年3月 株式会社日立製作所と日立特約店契約証書を締結
昭和31年12月 本社を港区芝田村町(現 港区新橋)の現在地に移転
昭和35年2月 八洲電機株式会社に商号変更
昭和37年7月 中国連絡所 開設(現 岡山支店)
昭和38年10月 広島事務所 開設(現 中国支社)
昭和43年10月 徳山出張所 開設(現 周南営業所)
昭和45年5月 大阪連絡所 開設(現 関西支社)
昭和47年1月 日立連絡所 開設(現 日立営業所)
昭和49年12月 建設業法に基づく建設大臣許可(特-49)第5842号を取得
昭和50年6月 千葉連絡所 開設(現 千葉営業所)
昭和50年11月 水島出張所 開設(現 倉敷営業所)
昭和51年9月 サービス部門を分離し、八洲電機サービス株式会社(昭和62年7月 八洲エンジニアリング株式会社に商号変更、現 株式会社ヤシマ・エコ・システム)を設立
昭和51年9月 茨城冷機株式会社を飯村機電工業株式会社との共同出資により設立
昭和59年4月 長野電子部品事務所 開設(現 長野電子営業所)
昭和59年5月 堺連絡所 開設(現 堺営業所)
昭和63年2月 佐世保連絡所 開設
昭和63年2月 株式会社中国パワーシステム(現 連結子会社)を設立
平成4年3月 関西物流センター 開設
平成8年5月 茨城営業所 開設
平成10年11月 中部事務所 開設(現 知多営業所)
平成11年4月 横浜電子営業所 開設
平成11年6月 有限会社テクノエイトを八洲エンジニアリング株式会社が設立
平成12年3月 株式会社サイエンテックを八洲エンジニアリング株式会社他との共同出資により設立
平成12年3月 千住別館 開設
平成13年1月 子会社茨城冷機株式会社を吸収合併
平成15年7月 八洲エンジニアリング株式会社から株式会社ヤシマ・エコ・システム(現 連結子会社)に商号変更
平成16年4月 有限会社テクノエイトから株式会社テクノエイト(現 連結子会社)に組織変更
平成16年10月 大成電機株式会社と合併
平成18年6月 Hong Kong Yashima Denki Limited(香港八洲電機有限公司)(非連結子会社)を設立
平成19年6月 株式会社サイエンテックの株式を全株譲渡
平成21年6月 東京証券取引所市場第二部に上場
平成23年4月 シンガポール事務所 開設
平成23年7月 麻布別館 開設
平成23年10月 幸栄電機株式会社(現 連結子会社)を全株式取得により子会社化
平成23年12月 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定

3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社4社並びに非連結子会社1社で構成され、主に電気機器、電子情報機器、電子デバイス、産業用設備、空調関連機器等を取り扱っております。各事業における当社及び関係会社の位置づけ等は次のとおりであります。なお、セグメントと同一の区分であります。

(システム・ソリューション事業)

当事業は、プラントシステム、産業システム、社会システムの3分野における製品の販売、システム設計、施工、工事、検査、保守、サービスを行っております。プラントシステム分野においては基幹素材産業において生産設備機器の導入や工事の企画・提案から設計・施工までを、産業システム分野においては様々な業界の生産現場においてその業界にマッチしたニーズを実現する技術力でトータルソリューションを提供し、環境、省エネ、安全の向上等を、社会システム分野においては民間鉄道、国土交通省、地方自治体を中心に、社会生活基盤を支えるインフラの整備・構築など、3分野における提案及びコンサルティング、セールスを展開しております。なお、取り扱い製品は以下となります。

プラントシステム

鉄鋼システム、受変電・配電設備、圧延設備、自家用発電機設備、石油・化学・エネルギープラント並びにこれらに関わるコンサルテーション、エンジニアリング

産業システム

薬品・食品・紙パルプ・精密電子などの電源設備・生産設備及び関連機器、空調設備、照明設備、セキュリティシステム並びにこれらに関わるコンサルテーション、エンジニアリング

社会システム

鉄道関連システム、公共システム、空港関連システム、上下水道設備並びにこれらに関わるコンサルテーション、エンジニアリング

<主な関係会社>(株)ヤシマ・エコ・システム、(株)中国パワーシステム、(株)テクノエイト、幸栄電機(株)

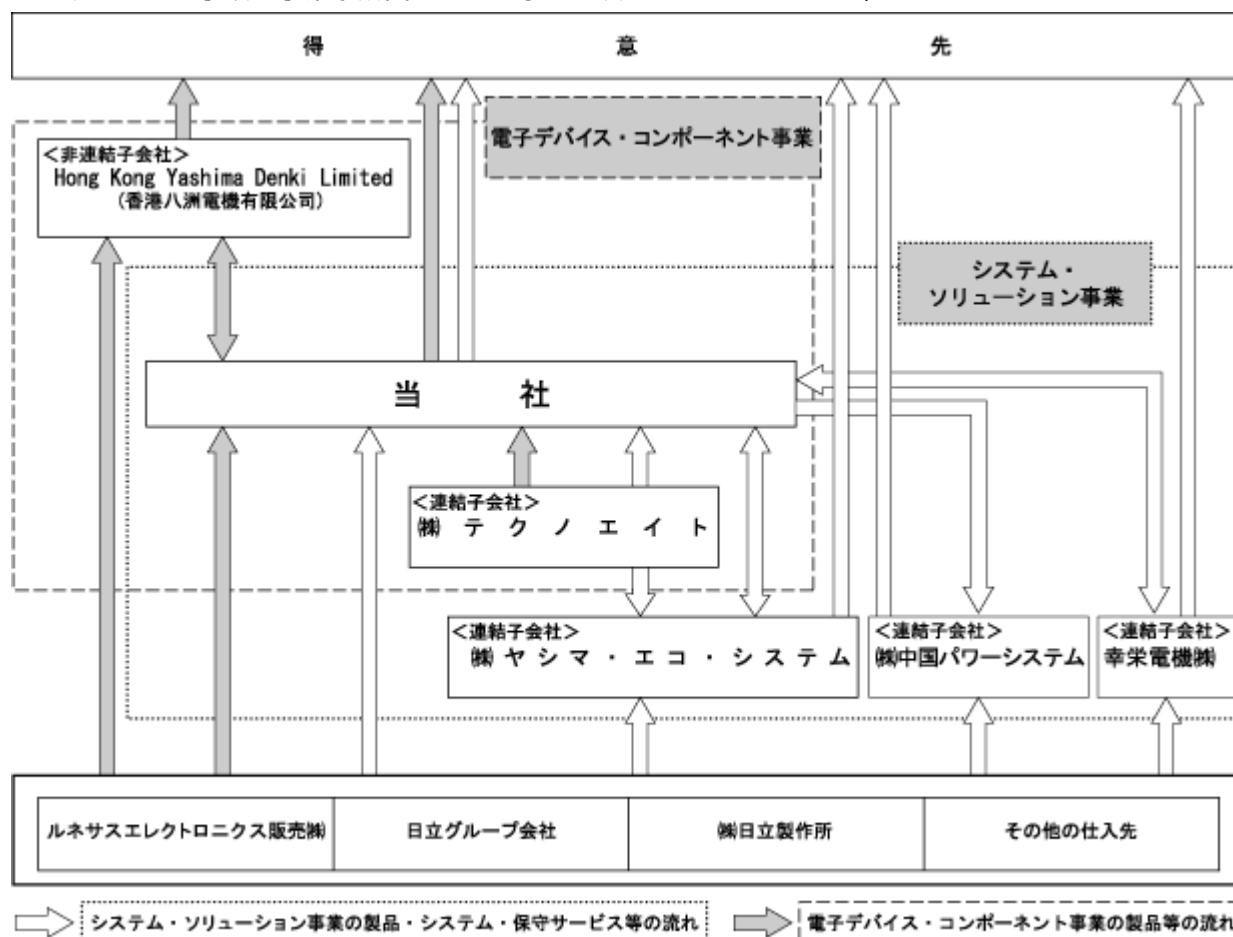
(電子デバイス・コンポーネント事業)

当事業は、産業機器、製造機器及び携帯電話、アミューズメント分野における半導体、電子部品、電子機器及びソフトウェア等の製品の販売、並びに専用半導体、ソフトウェアの開発支援、基盤製品等の開発における、提案及びコンサルティング、セールスを展開しております。なお、取り扱い製品は以下となります。

システムLSI、汎用マイコン、LCDドライバ、信号処理LSI、汎用半導体、半導体メモリ、その他半導体、パワーデバイス、液晶、コンポーネント

<主な関係会社>(株)テクノエイト、Hong Kong Yashima Denki Limited(香港八洲電機有限公司)

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



※ 平成23年10月3日付で幸栄電機株式会社の発行済の全株式を取得し、子会社化しております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社ヤシマ・エコ・システム	東京都足立区	100	システム・ソリューション事業	100.0	当社が販売した商品の据付、保守サービスを行っております。なお、当社所有の建物を賃借しております。また、当社からグループ内融資を行っております。役員の兼任等...兼任1名
株式会社中国パワーシステム	広島県広島市中区	30	システム・ソリューション事業	66.7	当社は情報機器等を販売しております。役員の兼任等...兼任1名
株式会社テクノエイト	東京都港区	10	システム・ソリューション事業 電子デバイス・コンポーネント事業	100.0 (30.0)	当社及び子会社へ人材派遣及び業務請負を行っております。役員の兼任等...兼任1名
幸栄電機株式会社	広島県広島市安佐北区	10	システム・ソリューション事業	100.0	当社は保守サービス等を行い、また、当社から制御盤等の製作を請け負っております。役員の兼任等...兼任1名

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
 2 議決権の所有割合の内書は、間接所有割合で内数であります。
 3 特定子会社に該当する会社は、ありません。
 4 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社は、ありません。
 5 幸栄電機株式会社は、平成23年10月3日付で当社が同社の発行済の全株式を取得し、子会社化しております。

5 【従業員の状態】

(1) 連結会社の状態

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)		
システム・ソリューション事業	743	(2)	[19]
電子デバイス・コンポーネント事業	87	(-)	[-]
全社(共通)	126	(2)	[-]
合計	956	(4)	[19]

- (注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を(外書)で表示し、臨時従業員の年間平均雇用人員は[外書]で表示しております。
2 臨時従業員は、派遣社員及びパートタイマーであります。
3 全社(共通)は、特定セグメントに区分できない管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状態

平成24年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
685 (3) [48]	40.3	15.9	5,739,464

セグメントの名称	従業員数(名)		
システム・ソリューション事業	493	(1)	[37]
電子デバイス・コンポーネント事業	83	(-)	[3]
全社(共通)	109	(2)	[8]
合計	685	(3)	[48]

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を(外書)で表示し、臨時従業員の年間平均雇用人員は[外書]で表示しております。
2 臨時従業員は、派遣社員及びパートタイマーであります。
3 全社(共通)は、特定セグメントに区分できない管理部門の従業員であります。
4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状態

当社グループ従業員は、労働組合を結成しておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における日本経済は、東日本大震災の影響で前半はサプライチェーン寸断による生産活動の停滞や原発事故に伴う電力供給不足から消費活動も停滞しました。後半は欧州財政危機・中国経済の減速や円高の長期化などの懸念材料から景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような状況下において、当社グループは平成23年4月からグループ事業の再編による空調事業の競争力強化やシンガポール事務所の開設によるグローバル企業へのサポート体制の強化、10月には配電盤・制御盤などの設計・製作及びメンテナンスを主たる事業とする幸栄電機株式会社の子会社化、12月には東京証券取引所市場第二部から同市場第一部指定を果たすなど、更なる業容の拡大と企業価値向上に取り組んでまいりました。また、東日本大震災により被災されたお客様の復旧にも傾注いたしました。一方、アミューズメント分野の在庫調整と震災後の鉄道関連設備投資が凍結されるなどの影響を受けました。

その結果、当連結会計年度の売上高は751億73百万円と前連結会計年度に比べ202億36百万円(前年同期比21.2%減)の減収となりました。しかし、工事案件の増加に伴い、売上総利益率の向上に努めた結果、営業利益は17億22百万円と前連結会計年度に比べ7億45百万円(前年同期比76.3%増)、経常利益は18億13百万円と前連結会計年度に比べ7億31百万円(前年同期比67.7%増)、当期純利益は8億89百万円と前連結会計年度に比べ3億12百万円(前年同期比54.1%増)のそれぞれ増益となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

システム・ソリューション事業

(プラントシステム)

鉄鋼分野については、中国市場の減速と円高の影響で設備投資が縮小したものの、老朽化更新やCO₂削減・省エネ関連案件等の取り込みに注力した結果、売上高は好調に推移いたしました。また、東日本大震災で被災した工場設備の復旧等に対応いたしました。

石油化学分野については、省エネなどの環境関連を目的とした設備全般の老朽化更新工事や電力総量規制に関連した自家用発電機設備の需要が高まり、売上高は好調に推移いたしました。

その結果、プラントシステムとしての売上高は186億83百万円と前連結会計年度に比べ31億64百万円(前年同期比20.4%増)の増収となりました。

(産業システム)

化学、精密、機械分野では、前半は震災の影響による設備投資計画の見直しがあったものの、デジタル家電向け製造装置等の投資が行われ、また、後半は自家用発電機設備の需要に対応し、売上高は好調に推移いたしました。

セキュリティシステムや情報制御システムについては、企業の安全・安心の需要に対応し、売上高は好調に推移いたしました。

空調分野では、通信キャリアの積極投資及びCO₂削減を目的とした設備更新需要に対応し、また、当社グループ事業再編の効果によって売上高は堅調に推移いたしました。

その結果、産業システムとしての売上高は302億50百万円と前連結会計年度に比べ24億4百万円(前年同期比8.6%増)の増収となりました。

(社会システム)

運輸分野では、東日本大震災に伴う計画停電等の影響による大幅な設備投資計画の見直しにより売上高は低調に推移いたしました。

その結果、社会システムとしての売上高は111億51百万円と前連結会計年度に比べ18億16百万円(前年同期比14.0%減)の減収となりました。

システム・ソリューション事業としての売上高は600億94百万円と前連結会計年度に比べ37億51百万円(前年同期比6.7%増)の増収、営業利益は31億39百万円と前連結会計年度に比べ13億25百万円(前年同期比73.1%増)の増益となりました。

電子デバイス・コンポーネント事業

半導体市場における産業機器・通信分野では、震災の影響や円高の長期化、また、タイ洪水被害による生産計画の縮小などの影響を受け、売上高は低調に推移いたしました。

アミューズメント分野では、ゲームソフト用半導体や液晶表示パネルの需要が大幅に減少し、売上高は低調に推移いたしました。

その結果、電子デバイス・コンポーネント事業としての売上高は150億79百万円と前連結会計年度に比べ239億87百万円(前年同期比61.4%減)の減収、営業利益は1億42百万円と前連結会計年度に比べ4億29百万円(前年同期比75.1%減)の減益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローについては、営業活動により11億32百万円増加し、投資活動により9億41百万円減少、財務活動により7億27百万円増加しました。その結果、現金及び現金同等物は75億22百万円と前連結会計年度と比較して9億17百万円(前年同期比13.9%増)の増加となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローの収入は、11億32百万円(前年同期比19.7%増)となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益18億21百万円、仕入債務の増加額11億96百万円、未払金の増加額21億49百万円がそれぞれキャッシュ・フローのプラスとなった一方、売上債権の増加額15億31百万円、たな卸資産の増加額4億32百万円、未収入金の増加額16億97百万円、法人税等の支払額5億96百万円がそれぞれキャッシュ・フローのマイナスとなったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度の投資活動によるキャッシュ・フローの支出は、9億41百万円(前年同期比411.0%減)となりました。

これは主に、投資有価証券の償還による収入4億円がキャッシュ・フローのプラスとなった一方、無形固定資産の取得による支出6億19百万円、投資有価証券の取得による支出4億73百万円、子会社株式の取得による支出5億30百万円がそれぞれキャッシュ・フローのマイナスとなったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度の財務活動によるキャッシュ・フローの収入は、7億27百万円となりました。

これは主に、長期借入れによる収入4億30百万円、株式の発行による収入7億91百万円がそれぞれキャッシュ・フローのプラスとなった一方、長期借入金の返済による支出2億20百万円、配当金の支払額2億49百万円がそれぞれキャッシュ・フローのマイナスとなったためであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(百万円)	前年同期比(%)
システム・ソリューション事業	51,635	+7.5
電子デバイス・コンポーネント事業	13,095	65.1
合計	64,731	24.4

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 上記の金額には、工事に伴う材料費等を含んでおります。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
システム・ソリューション事業	60,612	+9.4	27,758	+4.0
電子デバイス・コンポーネント事業	14,847	62.1	938	19.8
合計	75,460	20.2	28,697	+3.0

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
システム・ソリューション事業	60,094	+6.7
電子デバイス・コンポーネント事業	15,079	61.4
合計	75,173	21.2

- (注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
任天堂(株)	28,809	30.2	-	-

- (注) 当連結会計年度においては、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先はありません。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当連結会計年度は当社グループの中期経営計画『SMART2015』の初年度でもありましたが東日本大震災やタイの洪水など予測困難な事象をはじめ、円高などで大きな影響を受け、大変厳しい環境下にありました。このような状況下、当社は昨年12月に東京証券取引所市場第一部に指定となりました。

これを機に株主様のご期待に沿うべく企業価値の向上と企業規模の拡大を目指し以下の課題に取り組んでまいります。

ソリューションビジネスの強化

当社グループの強みで有る電機制御や空調技術などのコア技術で、環境・省エネのニーズに対しソリューションビジネスを展開し、積極的に受注の拡大を目指します。

電子デバイス・コンポーネント事業の強化

販売メニューの拡充とシステム技術力の強化によるコンポーネント事業の拡大を目指します。

新規事業への取り組み

当社グループの従来の事業基盤を基に新たな事業領域の拡大を図るため新規事業へ積極的に取り組むと共に、国内外の営業拠点の拡充も併せて実施いたします。

グローバル化への取り組み

当社グループの主要顧客の積極的な海外投資に対応するため、香港八洲電機有限公司に引き続きシンガポール及び上海への現地法人設立による現地サポート体制を強化いたします。併せて顧客の海外資材調達のニーズにも積極的に対応してまいります。

経営の効率化

平成22年4月より投資いたしました『新基幹系システム』が稼動いたします。本システムにより各種経営情報のリアルタイムな可視化と業務の効率化によるスピード経営を実現いたします。

社会的責任への取り組み

当社グループの基本理念である『事業活動における地球環境問題の解決を認識し、かけがえのない地球環境・限りある資源を守る』ため、ISO14001マネジメントシステムの継続的向上を目指します。

また、内部統制の体制堅持とコンプライアンスの徹底により社会的責任を遂行いたします。

人財育成

当社は、グループ経営を推進するうえで、『経営者の創出・育成』が喫緊の課題であります。経営哲学とリーダーシップ、そして人間力を備えた将来の経営層の育成に傾注してまいります。

また、技術商社として高度なニーズに応えるためには、たゆまぬ技術力の向上が必須であります。社員一人ひとりがシステムエンジニアとして社会の多様化の中に身を置くことにより、存在価値を認識し社会に貢献してまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項は以下のとおりです。また、必ずしも事業等のリスクに該当しない事項についても、投資判断上、あるいは当社グループの事業活動を理解する上で重要と考えられる事項については、投資家に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。当社グループはこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の予防及び発生した場合の対応に努める方針であります。

なお、文中の将来に関する事項は本書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)㈱日立製作所及び㈱日立製作所の連結子会社並びに持分法適用会社（以下 日立グループ会社）との関係について

特約店契約について

当社グループは、日立グループ会社と特約店契約を締結しております。同契約は、当社グループの事業活動の前提となっておりますが、それら契約の主な契約期間及び解除事由は個々の契約により異なり、概ねその基本的な規定事項としては、手形の不渡り・差押え・仮差押え・仮処分・競売・破産・民事再生・会社更生・債務不履行・監督官庁からの営業許可の取消処分等に該当する場合となっております。現時点では解除事由を含めてそれらの契約の継続に支障を来す要因は発生しておりません。

しかしながら、それらの契約の継続に支障を来す要因が発生した場合には事業活動に重大な影響を及ぼす可能性があります。

当社と㈱日立製作所は昭和25年3月に特約店契約を締結して以降、日立グループ会社の増加や統合とともに当社グループも日立グループ会社と特約店契約を締結し、その業容を拡大してきました。

特約店契約は、相互に業務の発展を図ることを目的としており、当社は当該契約を締結している日立グループ製品の販路拡充に最善の努力をなすことが謳われております。また、当該契約書では当社グループの主な取扱製品、主に担当する販売地域及び支払条件等が記載されております。

現在、当社グループが特約店契約を締結している日立グループ会社とは良好な関係にあるものと認識しており、共存共栄の間柄ではありますが、当社グループと日立グループ会社との関係に変化が生じた場合、あるいは日立グループ会社の特約店戦略や特約店各社に対する諸条件もしくは当社グループに対する戦略が変更された場合等には、上記特約店契約の内容等に変更の可能性があります。その場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

仕入依存度について

当社グループの㈱日立製作所及び主な日立グループ会社からの仕入高は第68期連結会計年度において466億13百万円と当社グループ仕入高全体の72.0%を占めております。

したがって、日立グループ会社の製品に重要な問題が発生した場合等、日立グループ会社のブランドイメージが著しく低下した場合には、当社グループが取り扱っている日立グループ会社の製品の競争力が低下し、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループは、日立グループ会社から報奨金を受け取っております。この報奨金は、日立グループ会社により定められている対象製品の取扱高等の諸条件に応じて変動するものです。

日立グループ会社から受け取った当社グループの報奨金額は第67期連結会計年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）においては1億17百万円、第68期連結会計年度（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）においては1億19百万円となっております。

この報奨金については、日立グループ会社により定められる諸条件の変更に伴い変動するため、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

なお、仕入実績は下記の通りです。

仕入先	第67期連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		第68期連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
㈱日立製作所	18,746	21.9	18,453	28.5
主な日立グループ会社	52,814	61.7	28,159	43.5
上記合計	71,560	83.6	46,613	72.0
連結仕入高	85,567	100.0	64,731	100.0

(注) 上記表の「主な日立グループ会社」の金額は、日立グループ会社のうち、特に取引金額の大きい㈱日立ディスプレイズ、ルネサスエレクトロニクス販売㈱、㈱日立産機システム、㈱日立プラントテクノロジー、日立アプライアンス㈱、三菱日立製鉄機械㈱、㈱日立ビルシステムの7社からの仕入金額を合計したものであります。

売上高の純額表示について

当社グループは、包括代理受注契約（請負人の代理人として契約し、その権利・義務を承継する取引）等を締結しており、当該契約に基づく取引については、売上高を純額表示しております。

当社グループは商社という事業形態であり、基本的には総額表示で売上高及び売上原価を計上しておりますが、今後も取引内容を鑑み、包括代理受注契約等に基づく取引とそれに類似した取引については純額表示への変更をいたします。

したがって、今後の取引内容の見直しや契約の変更等の理由により、前期と比較する場合の経営成績（受注高及び売上高）に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループへの出資について

当社グループは、販売力強化、顧客サービスの向上等を目的とした日立グループ会社との関係強化のため、当社は㈱日立製作所から1.8%、㈱日立産機システムから0.5%、日立アプライアンス㈱から2.2%、当社の連結子会社である㈱中国パワーシステムは㈱日立製作所から33.3%の出資を受けております。

したがって、日立グループ会社からの出資割合に変更があった場合には、当社のグループ戦略等を見直す必要性が生じ、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 当社グループの経営戦略について

当社グループは従来、日立グループ会社の特約店として同グループ製品を中心に据えた営業政策を取り、順次販売力を強化してまいりました。これと並行して当社の規模拡大や経済環境の変化に対応すべく、経営戦略としてシステム・ソリューション事業並びに電子デバイス・コンポーネント事業に幅広く展開してまいりました。しかしながら、今日のような経営環境においては、市場環境、経済状況、市場ニーズ等をいち早く察知し、対応を図らなくてはなりません。多様な情報入手の十分性確保には限界があり、それによって時期を逸するなどの対策の遅れから、停滞在庫の発生による不良資産の増加や、製品投入遅れによる受注機会の逸失等、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、近年は主に環境問題、省エネルギー、高効率化などを追求する顧客ニーズが急速に多様化し、それに対応するためエンジニアリング力の強化及び、より付加価値の高い当社独自のソリューションビジネスへの期待が高まっております。しかしながら、このようなソリューションビジネスではメーカーの製品が持つ機能に当社のノウハウを付加するビジネスの割合が増えることを意味するもので、当然、品質管理に関して負う責任の重要性も拡大してまいります。この場合、当社は製造部門を持たないことから日立グループ会社及びその他の外注メーカーとの連携が必要となります。その際、製品・サービスに関する契約を明確に致しますが、事故・クレーム等の原因について責任が明確になるまで、当社グループが顧客に提供する製品・技術・サービスについては一義的に責任を負うことがあり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

さらに、当社グループは、今後も新たな成長事業の創出及び既存事業における更なる高収益の追求を目指し、利益を生み出すことのできる体質への改善に積極的に取り組んでまいります。しかし当社グループが事業を遂行する上において、経済環境、自然災害、戦争、テロ、感染症等の不可抗力、金融、株式市場、政府等に

よる規制、仕入先の供給体制、商品の確保、また人材の確保、喪失等により当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(3)外部環境が業績に及ぼす影響について

システム・ソリューション事業と設備投資動向の連動性について

当社グループのシステム・ソリューション事業は、鉄鋼、非鉄金属、石油、化学、精密機械、製紙、薬品、建設、運輸、公共、流通、サービス業を営む一般企業や官公庁に対して電気機器、電子情報機器、産業用設備、空調関連機器等の販売及び設置工事等を行っております。この事業は、国内設備投資の動向に影響を受ける傾向があります。

したがって、国内設備投資動向が悪化した場合及び当社の主要顧客が属する事業分野の市況が悪化した場合等には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

電子デバイス・コンポーネント事業について

当社グループの電子デバイス・コンポーネント事業は、主に電気・電子機器関連メーカーやゲーム機器メーカーに対し、システムLSI、汎用マイコン、汎用半導体、液晶等の半導体・電子デバイス製品を販売しております。これらの製品は、当社グループの顧客が販売する製品の市況に左右される需要変動が激しく、製品サイクルも短いことが特徴です。このような背景から需給バランスが取れないことが多く、変化する半導体価格の動向次第で仕入価格が大きく影響を受けます。

このように、価格が短期間で大幅に変動した場合や当社の主要販売先の商品の販売動向及び生産状況等によって、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(4)売上高の下期偏重について

当社グループのシステム・ソリューション事業は、プラントシステム、産業システム、社会システムの3分野で構成されておりますが、プラントシステム分野における生産設備機器を含む工事物件や、社会システム分野における官公庁・公共事業物件の場合、工事完了及び検収時期が年度末に集中することが多く、売上高が特に第4四半期に集中する傾向があります。

(5)特定の販売先への依存について

当社グループの平成24年3月期における販売先は約4,500社と多岐にわたっておりますが、当社グループの電子デバイス・コンポーネント事業における主要販売先の任天堂(株)に対する販売高は第67期連結会計年度において288億9百万円と当社グループ販売高全体の30.2%、第68期連結会計年度において60億63百万円と当社グループ販売高全体の8.1%を占めております。

同社は引き続き当社グループの主要な販売先であると認識しており、同社の当社への需要の増減や契約に変更が生じた場合、当社の電子デバイス・コンポーネント事業の業績に影響を及ぼす可能性があります。

なお、販売実績は下記のとおりです。

相手先	第67期連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		第68期連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
	販売高 (百万円)	割合 (%)	販売高 (百万円)	割合 (%)
任天堂(株)	28,809	30.2	6,063	8.1

(6) 法的規制について

当社グループは、広範囲の事業展開を行っているため種々の法的規制(建設業法、輸出管理法等)を受けております。これら法的規制は将来において変更される可能性があり、また現在予期しえない法的規制等が設けられる可能性もあります。

その場合たとえば、建設業法においては当社グループの工事売上高に影響し、技術資格においては、資格保有者の確保が確実となるまで受注機会を逸する可能性が発生します。また、輸出管理法令に関しては、現在、直接輸出物件は少ないものの、全ての取引において輸出管理法令等に抵触しないことと、手続きを漏れなく厳正に行われなければ、刑事上、行政上の処分を受ける可能性があります。

したがって、当社グループがこれらの法的規制等の対応に遅れを生じた場合、対象となる営業の全部又は一部の停止命令や許可取消等の行政処分あるいは当社グループ顧客等からの信頼の失墜等により、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 有価証券の保有状況について

当社グループは、販売・仕入に係る取引先及び取引金融機関の株式を中心に、平成24年3月期において投資有価証券17億13百万円を保有しております。このうち、株式の多くは上場しており、株式市場の価格変動リスクを負っております。

したがって、株式市場における相場的大幅な変動は、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

なお、有価証券に係る時価に関する情報は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(有価証券関係)」に記載しております。

(8) 退職給付債務について

当社グループは、確定拠出の性格を併せもつ確定給付企業年金制度(キャッシュバランス制度)に移行し、将来期間の業績及び財政状態へのリスク軽減を図っております。しかし、従業員退職給付債務及び費用は、割引率等数理計算で設定される前提条件や年金資産の期待運用収益率等に基づいて算定されており、実際の結果が前提条件と異なる場合又は変更された場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 債権管理について

当社グループの販売先は多岐にわたり、その規模や業種も多種多様であります。債権管理には特に注力し、販売先の業態・資力に応じた信用限度設定を行うとともに、必要に応じて担保等の提供を受けるほか、信用状態の継続的な把握をするなど、不良債権の発生防止に努めております。

また、貸倒引当金の計上に関しては、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しておりますが、景気の動向等によっては、貸倒引当金の積み増しを要する事態が生じ、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 物流の外部委託について

当社グループの物流は(株)日立物流をはじめとする外部の専門企業に全面委託しております。当社の商品を取扱う拠点は国内に6箇所あり、拠点毎に保管条件や配送条件等は異なっております。

したがって、委託先企業はそれぞれの条件に応じて、複数存在しますが、その取引条件の変更や、事故等によるトラブル発生の場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(11)情報セキュリティについて

当社グループは、事業を行うにあたり取引先や営業に関する情報、又は当社グループや取引先の技術情報等当社グループの事業に関して多くの秘密情報を保有しており、当社グループではコンピューターウイルス対策及びネットワーク管理等の情報保護に関する社内細則を定め、入退館システムの導入、情報管理に関する社内教育の徹底及び外部委託先との機密保持契約の締結を行い、当社グループからの情報漏洩を未然に防ぐ対策を講じております。このような対策にもかかわらず、予期せぬ事態により情報が流出した場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループと日立グループ会社の一部とは、業務の効率化及び納期の短縮等を目的として、サーバーの共有による取引データ等の情報を共有しており日立グループ会社が保守管理を行うシステムで受発注を行い、それに伴う取引データ等の情報を日立グループ会社と共有しております。

したがって、予期せぬ事態により当該システムやサーバー等に不具合が発生した場合や情報が流出した場合等には、同様の影響が考えられます。

(12)自然災害について

地震等の自然災害により当社グループの事業所・設備や社員などに対する被害が発生し、営業活動に支障が生じる可能性があります。

なお、当社グループでは社員の安否確認や災害対策マニュアルの作成及び防災訓練などの対策を講じてきておりますが、自然災害による被害を完全に回避できるものではなく、被害が発生した場合には当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 販売等の提携は次のとおりであります。

契約会社名	相手先の名称	契約の種類及び 主要取扱製品	契約期間
八洲電機(株) (当社)	(株)日立製作所	特約店契約証書 受変電設備、鉄道車両、 情報機器	平成4年3月21日から
	(株)日立産機システム	特約店契約証書 圧縮機、配電機器、 モーター・インバーター	平成16年4月1日から1年
	日立アプライアンス(株)	特約店契約書 空調、冷凍、冷蔵機器、 ランプ、照明器具	平成11年10月1日から1年
	(株)日立プラントテクノロジー	特約店契約書 圧縮機、ポンプ、送風機、 防雷システム	平成19年4月1日から1年
	(株)日立ビルシステム	特約店契約書 昇降機	平成10年10月6日から
	ルネサスエレクトロニクス 販売(株)	特約店契約証書 ドライバ、半導体	平成15年4月1日から1年
	(株)日立ディスプレイズ	特約店契約証書 液晶	平成14年10月1日から
(株)中国パワーシステム (連結子会社)	(株)日立製作所	特約店契約証書 発電・変電機器、 情報機器	平成4年3月21日から1年
	日立三菱水力(株)	代理店基本契約 水力発電システムに係る 製品	平成23年10月1日から1年

(注) 1 契約期間は再契約のものを含めて最新の契約書に基づく契約期間を表示しております。また、上記すべての契約は、自動更新となっております。

- 上記契約の解除事由は個々の契約により異なりますが、概ねその基本的な規定事項としては、手形の不渡り・差押え・仮差押え・仮処分・競売・破産・民事再生・会社更生・債務不履行・監督官庁からの営業許可の取消処分等に該当する場合となっております。
- 当社と(株)ヤシマ・エコ・システムにおける平成23年2月25日付の吸収分割契約に伴い、日立アプライアンス(株)との特約店契約証書について、当社は「販売区域の変更に関する覚書」、(株)ヤシマ・エコ・システムは「解約合意書」を平成23年4月1日付でそれぞれ締結しております。
- (株)日立製作所、三菱電機(株)、三菱重工業(株)の3社における水力発電システム事業をそれぞれ簡易吸収分割により日立三菱水力(株)に承継させる会社分割に伴い、(株)中国パワーシステムは日立三菱水力(株)と「代理店基本契約書」を平成23年10月1日付で締結しております。
- (株)産業革新機構、(株)日立製作所、ソニー(株)、(株)東芝の4社は、(株)産業革新機構を中心として設立及び運営される(株)ジャパンディスプレイに中小型ディスプレイ事業を行う(株)日立製作所、ソニー(株)、(株)東芝それぞれの子会社の全ての発行済株式等が譲渡されたため、(株)日立ディスプレイズとの特約店契約は、平成24年4月1日付で(株)ジャパンディスプレイに承継されております。

(2) 当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため、グループ内融資を行っております。

契約会社名	相手先	契約の種類及び内容	契約期間
八洲電機(株) (当社)	(株)ヤシマ・エコ・システム (連結子会社)	グループファイナンス契約 貸付極度額 借入の申込 貸付期間	平成17年8月31日から1年 (自動更新)

(3) 株式取得(完全子会社化)

当社は平成23年8月24日開催の取締役会において、幸栄電機株式会社の全株式を取得することを決議し、平成23年8月29日に株式譲渡契約を締結いたしました。これにより、同社は、平成23年10月3日付で当社の完全子会社となりました。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(企業結合等関係)」に記載しております。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は437億72百万円で、前連結会計年度末に比べ55億32百万円増加しております。主な要因は、現金及び預金が9億44百万円（なお、詳しい内容については、(2) キャッシュ・フローの状況の項目をご参照ください。）、期末直近日の売上高の増加により受取手形及び売掛金が24億90百万円、未収入金が16億96百万円、期末直近日の仕入高の増加により商品が3億6百万円それぞれ増加した一方、有価証券が3億1百万円減少したことなどによるものです。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は53億16百万円で、前連結会計年度末に比べ14億28百万円増加しております。主な要因は、幸栄電機(株)を完全子会社化したことに伴い建物が1億2百万円、土地が1億54百万円、のれんが2億87百万円、投資有価証券が4億5百万円増加し、「次期基幹系システム」のための統合基幹系業務ソフトの構築によりソフトウェア仮勘定が6億85百万円増加したことなどによるものです。

(負債)

当連結会計年度末における負債の残高は353億20百万円で、前連結会計年度末に比べ53億99百万円増加しております。主な要因は、期末直近日の仕入高の増加により支払手形及び買掛金が19億8百万円、未払金が22億38百万円それぞれ増加したことなどによるものです。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は137億68百万円で、前連結会計年度末に比べ15億62百万円増加しております。主な要因は、新株発行により資本金が4億9百万円、資本剰余金が4億9百万円、当期純利益の計上により利益剰余金が6億40百万円、上場株式の時価が上昇したことによりその他有価証券評価差額金が81百万円それぞれ増加したことなどによるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローについては、営業活動により11億32百万円増加し、投資活動により9億41百万円減少、財務活動により7億27百万円増加しました。その結果、現金及び現金同等物は75億22百万円と前連結会計年度と比較して9億17百万円(前年同期比13.9%増)の増加となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローの収入は、11億32百万円(前年同期比19.7%減)となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益18億21百万円、仕入債務の増加額11億96百万円、未払金の増加額21億49百万円がそれぞれキャッシュ・フローのプラスとなった一方、売上債権の増加額15億31百万円、たな卸資産の増加額4億32百万円、未収入金の増加額16億97百万円、法人税等の支払額5億96百万円がそれぞれキャッシュ・フローのマイナスとなったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度の投資活動によるキャッシュ・フローの支出は、9億41百万円(前年同期比411.0%減)となりました。

これは主に、投資有価証券の償還による収入4億円がキャッシュ・フローのプラスとなった一方、無形固定資産の取得による支出6億19百万円、投資有価証券の取得による支出4億73百万円、子会社株式の取得による支出5億30百万円がそれぞれキャッシュ・フローのマイナスとなったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度の財務活動によるキャッシュ・フローの収入は、7億27百万円となりました。

これは主に、長期借入れによる収入4億30百万円、株式の発行による収入7億91百万円がそれぞれキャッシュ・フローのプラスとなった一方、長期借入金の返済による支出2億20百万円、配当金の支払額2億49百万円がそれぞれキャッシュ・フローのマイナスとなったためであります。

(3) 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は751億73百万円(前年同期比21.2%減)となりました。これは、システム・ソリューション事業で売上高が37億51百万円(前年同期比6.7%増)増収したことで、電子デバイス・コンポーネント事業で売上高が239億87百万円(前年同期比61.4%減)減収したことによるものであります。(詳細は第2事業の状況 1業績等の概要 (1)業績の項目をご参照ください)しかし、工事案件の増加に伴い、売上総利益率の向上に努めた結果、営業利益は17億22百万円(前年同期比76.3%増)、経常利益は18億13百万円(前年同期比67.7%増)、税金等調整前当期純利益は18億21百万円(前年同期比70.7%増)、法人税等及び少数株主利益控除後の当期純利益は8億89百万円(前年同期比54.1%増)となりました。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、販売設備の拡充・強化などを目的として継続的に実施しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は、781百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) システム・ソリューション事業

当連結会計年度の主な設備投資は、「新基幹系システム」のための統合基幹系業務ソフトを中心とする総額548百万円の投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(2) 電子デバイス・コンポーネント事業

当連結会計年度の主な設備投資は、「新基幹系システム」のための統合基幹系業務ソフトを中心とする総額94百万円の投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(3) 全社共通

当連結会計年度の主な設備投資は、「新基幹系システム」のための統合基幹系業務ソフトを中心とする総額138百万円の投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名) [ほか、 平均臨時 雇用者数]	
			建物	機械装置 及び 運搬具	工具、 器具及び 備品	土地 (面積㎡)	ソフト ウェア	ソフト ウェア 仮勘定		合計
本社 (東京都 港区)	システム・ ソリューション事業 電子デバイス・ コンポーネント事業	販売設備 (管理業務、販 売業務)	161	2	99	29 (515.79)	95	1,024	1,412	426 [30]
別館 (東京都 港区)	-	事務設備 (管理業務)	25	-	0	110 (174.61)	-	-	136	5 [2]
麻布別館 (東京都 港区)	システム・ ソリューション事業 電子デバイス・ コンポーネント事業	販売設備 (管理業務、販 売業務)	105	3	2	78 (622.96)	-	-	190	69 [2]
関西支社 (大阪市 淀川区)	システム・ ソリューション事業 電子デバイス・ コンポーネント事業	販売設備 (管理業務、販 売業務)	2	0	0	-	-	-	2	57 [5]
中国支社 (広島市 中区)	システム・ ソリューション事業	販売設備 (管理業務、販 売業務)	0	0	0	-	1	-	3	41 [2]
岡山支店 (岡山県 倉敷市)	システム・ ソリューション事業	販売設備 (管理業務、販 売業務)	0	0	0	-	0	-	1	16 [2]

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3 上記には、連結子会社へ賃貸しているものは、含んでおりません。
4 上記のほか連結会社以外から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
本社 (東京都港区)	システム・ソリューション事業 電子デバイス・コンポーネント事業	販売設備 (管理業務、 販売業務)	2	0

- 5 当社から連結子会社へ賃貸している主要な設備は、以下のとおりであります。
 (株)ヤシマ・エコ・システム ... 千住事業所 建物(帳簿価額42百万円)
 土地(帳簿価額26百万円 865.94㎡)

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名) [ほか、 平均臨時 雇用者数]
				建物	機械装置 及び 運搬具	工具、 器具及び 備品	土地 (面積㎡)	ソフト ウエア	合計	
(株)ヤシマ ・エコ・ システム	本社 (東京都 足立区)	システム・ ソリューション 事業	販売設備、 工場 (管理業務、 販売業務、 修理業務)	48 [42]	0 [0]	13 [0]	26 [26] ([865.94])	19 [-]	108 [69]	86 [10]
(株)中国 パワー システム	本社 (広島市 中区)	システム・ ソリューション 事業	販売設備 (管理業務、 販売業務)	1	-	0	-	12	14	19 [2]
幸栄電機 (株)	本社、 本社工場 (広島市 安佐北区)	システム・ ソリューション 事業	販売設備、 工場 (管理業務、 販売業務、 生産業務)	51	3	2	227 (3,170.00)	2	287	58 [1]
	小河原工場 (広島市 安佐北区)	システム・ ソリューション 事業	工場 (生産業務)	37	38	0	35 (2,903.81)	0	111	19 [-]

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3 上記帳簿価額のうち、[]は提出会社から賃借しているものであります。
4 上記のほか連結会社以外から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
(株)ヤシマ ・エコ・ システム	本社 (東京都足立区)	システム・ ソリューション 事業	販売設備 (管理業務、 販売業務、修 理業務)	3	1

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
提出 会社	本社 (東京都 港区)	システム・ソ リューション 事業、電子デ バイス・コン ポーネント事 業、全社共通	統合基幹系 業務ソフト	1,425	609	増資資金、自 己資金、 借入金	平成22年 4月	平成24年 5月	-

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	21,782,500	21,782,500	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	21,782,500	21,782,500	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年6月24日 (注)1	500	18,720	37	1,176	37	462
平成23年3月25日 (注)2	487	19,207		1,176	165	627
平成23年12月8日 (注)3	2,200	21,407	349	1,525	349	977
平成24年1月4日 (注)4	375	21,782	59	1,585	59	1,037

(注) 1 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 250円

引受価額 232.5円

発行価額 170円

資本組入額 116.25円

自己株式の処分による売出し(引受人の買取引受による売出し)

処分価額 232.5円

2 (株)ヤシマ・エコ・システムの完全子会社化に伴う株式交換(交換比率1:12.5)による増加

3 有償一般募集

発行価格 337円

引受価額 317.75円

資本組入額 158.875円

4 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)

発行価格 317.75円

資本組入額 158.875円

割当先 大和証券キャピタル・マーケット株式会社

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	23	26	39	24	2	5,635	5,749	-
所有株式数 (単元)	-	22,311	1,436	12,327	2,505	4	179,156	217,739	8,600
所有株式数 の割合 (%)	-	10.25	0.66	5.66	1.15	0.00	82.28	100.00	-

(注) 自己株式1,109株は、「個人その他」に11単元、「単元未満株式の状況」に9株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
落合 憲	神奈川県横浜市青葉区	2,073	9.52
八洲電機従業員持株会	東京都港区新橋三丁目1番1号	1,192	5.47
日立アプライアンス株式会社	東京都港区海岸一丁目16番1号	487	2.24
嶽山 富美江	東京都中野区	443	2.03
株式会社日立製作所 (常任代理人資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号 晴海アイランドトリトンスクエアオフィス タワーZ棟)	400	1.84
落合 永二	東京都練馬区	395	1.81
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	350	1.61
株式会社みずほ銀行 (常任代理人資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区内幸町一丁目1番5号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号 晴海アイランドトリトンスクエアオフィス タワーZ棟)	350	1.61
田代 宏	東京都小金井市	300	1.38
鈴木 一正	東京都大田区	245	1.13
計	-	6,237	28.63

(注) 前事業年度末現在主要株主であった落合憲は、当事業年度末では主要株主ではなくなりました。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,772,800	217,728	-
単元未満株式	普通株式 8,600	-	-
発行済株式総数	21,782,500	-	-
総株主の議決権	-	217,728	-

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 八洲電機(株)	港区新橋三丁目1番1号	1,100	-	1,100	0.01
計	-	1,100	-	1,100	0.01

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	64	21,952
当期間における取得自己株式	75	26,775

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
保有自己株式数	1,109	-	1,184	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元と内部留保の充実を総合的に勘案し、収益性、成長性、企業体質の強化を考慮しつつ、安定的な配当の継続維持を基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、現在、期末配当の年1回を基本的な方針としており、期末配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、安定的な配当の継続維持を基本方針に次期以降の見通しなどを勘案し、1株につき普通配当13円と上場記念配当2円を合わせた15円としております。

内部留保資金の用途につきましては、経営体質強化と将来の事業展開投資として投入していくこととしております。

なお、当社は取締役会の決議によって会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)ができる旨を定款で定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額	1株当たり配当額
平成24年6月27日定時株主総会決議	326百万円	15円

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	-	-	580	400	407 398
最低(円)	-	-	248	250	318 299

(注) 1 当社株式は、平成21年6月25日から東京証券取引市場第二部に上場しております。それ以前については、該当事項はありません。

2 最高・最低株価は、平成23年12月9日付より東京証券取引所市場第一部におけるものであり、それ以前は東京証券取引所市場第二部におけるものであります。なお、第68期の最高・最低株価のうち 印は東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	355	371	343 398	364	378	407
最低(円)	338	321	318 339	334	348	364

(注) 最高・最低株価は、平成23年12月9日付より東京証券取引所市場第一部におけるものであり、それ以前は東京証券取引所市場第二部におけるものであります。なお、平成23年12月の最高・最低株価のうち 印は東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)	-	落合 憲	昭和32年5月3日生	昭和55年4月 ㈱日立製作所 入社 昭和59年7月 当社 入社 平成元年6月 取締役総務副本部長 平成4年6月 常務取締役 平成5年6月 専務取締役 平成7年5月 八洲エンジニアリング㈱取締役 平成7年6月 当社代表取締役副社長 平成9年6月 代表取締役社長(現任) 平成13年6月 八洲エンジニアリング㈱代表取締役 会長	(注) 2	2,073
取締役副社長 (代表取締役)	-	田嶋 三郎	昭和20年6月15日生	昭和44年4月 ㈱日立製作所 入社 平成11年1月 ㈱日立電子デバイス販売代表取締役 社長 平成14年7月 ㈱日立セミコンデバイス専務取締 役 平成15年4月 ㈱ルネサス販売取締役副社長 平成16年6月 同社取締役 兼 瑞薩貿易(上海)有 限公司董事長 平成17年6月 当社取締役副社長 平成18年4月 代表取締役副社長(現任)	(注) 2	75
専務取締役	-	太田 明夫	昭和23年6月20日生	昭和46年3月 当社 入社 平成13年4月 執行役員産機営業本部長 平成16年4月 常務執行役員 平成17年6月 取締役 平成18年4月 専務取締役(現任)	(注) 2	91
取締役	-	平山 和久	昭和26年3月29日生	昭和48年4月 当社 入社 平成12年4月 執行役員関西支社長 平成15年4月 執行役員産機・施設営業本部長 平成16年4月 執行役員公共・開発営業本部長 平成17年4月 執行役員公共本部長 平成18年4月 執行役員業務統括本部長 平成19年6月 ㈱ヤシマ・エコ・システム取締役 平成20年6月 当社取締役業務統括本部長 平成21年6月 ㈱ヤシマ・エコ・システム代表取締 役社長 平成21年6月 当社取締役(現任) 平成23年10月 幸栄電機㈱取締役(現任) 平成24年6月 香港八洲電機有限公司董事長 (現任) 平成24年6月 ㈱中国パワーシステム取締役 (現任)	(注) 2	40

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	-	松尾 裕之	昭和27年7月5日生	昭和50年4月 (株)日立製作所 入社 平成9年8月 同社電機システム統括営業本部 環境システム営業部長 平成17年4月 当社 入社 重工プラントシステム 本部長 平成18年4月 執行役員プラントシステム本部長 平成21年4月 執行役員営業統括本部長 平成21年6月 取締役営業統括本部長 平成23年6月 香港八洲電機有限公司 董事長 平成24年4月 当社取締役(現任) 平成24年6月 (株)ヤシマ・エコ・システム取締役(現任)	(注) 2	25
取締役	-	今町 和至	昭和30年2月26日生	昭和52年4月 当社 入社 平成19年4月 管理本部長 平成21年4月 当社執行役員業務統括本部長 平成23年4月 常務執行役員 平成23年6月 取締役(現任) 平成23年6月 (株)テクノエイト代表取締役(現任)	(注) 2	19
取締役	営業統括本部長	芦田 敏	昭和30年5月8日生	昭和54年4月 当社入社 平成18年4月 電子本部長 平成18年6月 香港八洲電機有限公司 董事 平成21年4月 当社執行役員関西支社長 平成23年4月 常務執行役員 営業統括副本部長 平成23年6月 (株)ヤシマ・エコ・システム取締役 平成24年4月 当社常務執行役員 営業統括本部長 平成24年6月 取締役 営業統括本部長(現任)	(注) 2	38
監査役(常勤)	-	宇佐美 貢	昭和21年10月5日生	昭和44年3月 当社 入社 平成13年4月 執行役員総務部長 平成16年4月 執行役員管理本部長 平成16年4月 (株)テクノエイト監査役 平成16年6月 (株)ヤシマ・エコ・システム監査役 平成17年4月 当社執行役員 平成17年6月 監査役(現任)	(注) 3	53
監査役(常勤)	-	樋口 正宏	昭和30年3月28日生	昭和52年4月 当社 入社 平成21年4月 経理本部長 平成22年4月 監査室本部長 平成23年10月 (株)ヤシマ・エコ・システム業務役員 平成24年6月 当社監査役(現任)	(注) 3	29
監査役	-	宮 直仁	昭和25年1月29日生	昭和49年4月 中央共同監査法人 入社 昭和50年9月 公認会計士登録 平成5年10月 朝日監査法人代表社員就任 平成15年7月 朝日監査法人東京事務所第5事業部長 平成20年6月 宮直仁公認会計士事務所 開設(現任) 平成21年6月 当社監査役(現任) 平成22年6月 (株)ツクイ社外取締役(現任) 平成23年3月 双葉監査法人統括代表社員(現任)	(注) 4	6

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役	-	立石 則文	昭和28年9月21日生	昭和54年4月 昭和61年9月 平成6年9月 平成15年4月 平成24年6月	東京弁護士会登録 アンダーソン・毛利法律事務所 所属 東西総合法律事務所設立(現任) グローバルワン不動産投資法人監督役員(現任) 当社監査役(現任)	(注)3	-
計							2,453

- (注) 1 監査役 宮直仁、立石則文は、会社法第2条第16号に定める、社外監査役であります。
2 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
3 監査役の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4 監査役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役2名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
松並 重孝	昭和31年9月5日生	昭和55年4月 平成6年6月 平成22年4月 平成24年4月	戸村義雄税理士事務所 入社 当社 入社 経理本部長 経理部長(現任)	(注)	0
山内 豊	昭和28年1月18日生	昭和53年9月 昭和63年3月 平成16年12月 平成20年6月	公認会計士登録 公認会計士事務所開業(現任) ㈱前川製作所(現㈱マエカワ) 監査役(現任) つくば市代表監査委員(現任) ㈱前川製作所監査役(現任)	(注)	-

(注) 補欠監査役の任期は、就任したときから退任した監査役の任期の満了の時までであります。

- 6 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、また、能力主義に基づく積極的な人材の登用のため、執行役員制度を導入しております。
執行役員は3名で、常務執行役員 営業統括本部長 付 島田 恒久、常務執行役員 テクニカルセンター長 相川 正、執行役員 電子情報本部長 柴田 俊充です。
7 略歴欄の社名については、就任当時の社名で表示しております。
8 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

イ 会社の企業統治の体制の概要及びその体制を採用する理由

当社は、公正かつ透明な企業活動を目指すことを経営の基本としております。この方針を支えるコーポレート・ガバナンスの重要性を充分認識し、経営の公正性・透明性、迅速な意思決定の維持・向上に努めております。

当社は、監査役会制度を採用しております。採用する理由は、内部統制システム及び執行監査体制の充実に努めるためです。現在の役員構成は取締役7名、監査役4名（うち社外監査役2名）であります。なお、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を確立し、経営責任を明確にするため、平成19年6月開催の定時株主総会において取締役の任期を2年から1年に定款変更しております。また、当社の取締役は18名以内、監査役は5名以内とする旨を定款で定めております。

なお、社外監査役は会社法第427条第1項に定める賠償責任を限定する契約を締結しており、当契約に基づく賠償責任限度額は、同法第425条第1項に定める金額の合計額としております。

ロ 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

取締役会は、毎月1回定期的に、さらに必要に応じて臨時に開催され経営に関する重要事項を審議・決定しております。業務執行につきましては、経営会議において業務執行の前提となる重要事項を審議し、取締役会に付議しております。なお、経営会議は、常勤取締役7名、常勤監査役2名の9名で構成されております。監査役会は、定期的さらに必要に応じて臨時に開催されており、また監査役は取締役会に出席するとともに、重要な会議への出席、重要な決裁書類の閲覧等を行っております。

内部統制につきましては、当社としては内部統制機能の充実に努め、社内のより高い企業倫理の確立に向けて努力しております。

ハ リスク管理体制の整備の状況

当社はリスクを適切に認識し、管理するための規程として「リスク管理規程」を定め、その中で個々のリスクに関するワーキンググループを設置するなど、リスク管理体制の整備を推進しております。

リスク管理に関するグループ全体の方針の策定、リスク対策実施状況の点検、フォロー、リスクが顕在化したときのコントロールを行うために、「リスク管理委員会」（事務局をCSR室に置く）を設置しています。リスク管理委員会は、審議・活動の内容を定期的に取締役会に報告します。

重大なリスクが顕在化したときには、「危機管理細則」に基づいて緊急時対策本部を設置し、被害を最小限に抑制するための適切な措置を講じます。

ニ 取締役会が決議した内部統制システムの整備に係る基本方針は、次のとおりであります。

(1) 取締役・従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

a. 当社は、法令、定款及び諸規則並びに社会規範・倫理（以下「法令等」と総称する。）の遵守により、公正かつ適切な経営の実現と、市民生活との調和をはかるため、経営理念、八洲グループ行動規範（以下「行動規範」という。）に従い、当社及びグループ各社における企業倫理の遵守及び浸透を徹底する。

b. 当社は、当社及びグループ各社の取締役及び従業員（執行役員を含む。以下同じ。）の職務の執行が法令等及び経営理念並びに行動規範に適合することを確保し、その徹底をはかるためにコンプライアンス委員会の運営と社員教育を行う。

- c . 当社及びグループ各社の従業員は、所属会社における法令違反、その他コンプライアンス違反に関する事実を発見した場合、所属会社のコンプライアンス統括部門へ通報する他、CSR室もしくは外部通報窓口へ通報することができるものとする。外部通報窓口は通報を受けた事実について、直ちにその内容をCSR室に報告する。CSR室は従業員又は外部通報窓口から通報あるいは報告を受けた事実について調査を行い、CSR室自らにおいて適切な対策を決定する他、重要と認めることがらについてはコンプライアンス委員会に報告し、同委員会において協議の上、適切な対策を決定する。また、同委員会は、重要で必要と認める場合は、取締役会及び監査役会へ報告する。
 - d . 監査室は、当社及びグループ各社の従業員の職務の執行が法令等に適合しているかにつき内部監査を行い、改善すべき事項を明確にした上で、助言や勧告を行うと共に監査結果について社長に報告し、社長は当社及び当該従業員の所属会社の取締役並びに監査役に報告する。
 - e . 当社は、金融商品取引法に対応するため財務報告に影響を与える可能性のある勘定科目、拠点、業務プロセス等を特定、可視化し、財務報告の適正性並びに信頼性を確保する。
 - f . 監査役会は、取締役より提出される職務執行確認書をもって自己の職務の執行と法令等の定めについて確認させ、その結果を申告せしめている。
- (2)取締役の職務の執行にかかる情報の保存及び管理に関する体制
取締役の職務の執行にかかる情報の保存及び管理に関する事項は別途定める「取締役会規程」及び「文書管理規程」に従って行い、取締役及び監査役は常時閲覧可能とする。
- (3)損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- a . 経営に影響を及ぼす恐れのある経営リスク・事業リスク等を総合的に認識し、評価する体制とすると共に、リスク管理に関する社内規程及びリスク管理体制を体系的に整備する。
 - b . リスク管理体制の整備は、リスク管理委員会（委員長：代表取締役）を中心として行い、経営に影響を及ぼす不測の事態が発生した場合に対応できる体制とする。
- (4)取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- a . 当社は取締役会を月1回定期的に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し機動的な意思決定を行う。
 - b . 当社は取締役会において経営機構、代表取締役及びその他の職務執行を担当する取締役・執行役員の職務分掌を定め、代表取締役及び各職務担当取締役・執行役員に職務の執行を行わせる。
 - c . 当社は取締役及び常勤監査役並びに執行役員にて構成される経営会議を設置し、職務執行に関する個別経営課題を実務的な観点から協議し審議する。経営会議は月1回以上開催する。
- (5)当社グループにおける業務の適正を確保するための体制
当社は、当社及びグループ各社すべてに適用する指針として行動規範を定めている。グループ各社の管理については、関係会社管理規程に基づき適切に推進する。またグループ各社の内部監査を実施・統括し、当社及びグループ各社の業務全般にわたる内部統制の有効性及び妥当性と信頼性を確保する。なお、グループ各社社長は当社社長宛にコンプライアンス宣誓書を提出するものとする。
- (6)監査役がその職務を補助すべき従業員を置くことを求めた場合における当該従業員に関する事項
当社は、監査役が補助者を必要とするときは、補助者となるべき従業員の所属する部門の担当取締役にその旨を連絡し、当該取締役は速やかに必要な措置を講じる。
- (7)前号の当該従業員の取締役からの独立性に関する事項
当社は、監査役の要請によって、その職務を補助することとなった従業員の人事異動・人事評価・懲戒処分等について当該監査役会の事前の同意を必要とする。
- (8)取締役及び従業員が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
当社は、取締役及び従業員が監査役会に報告すべき事項を監査役会と協議の上制定し、取締役は当社の業務又は業績に影響を与える重要な事項について監査役に都度報告する。

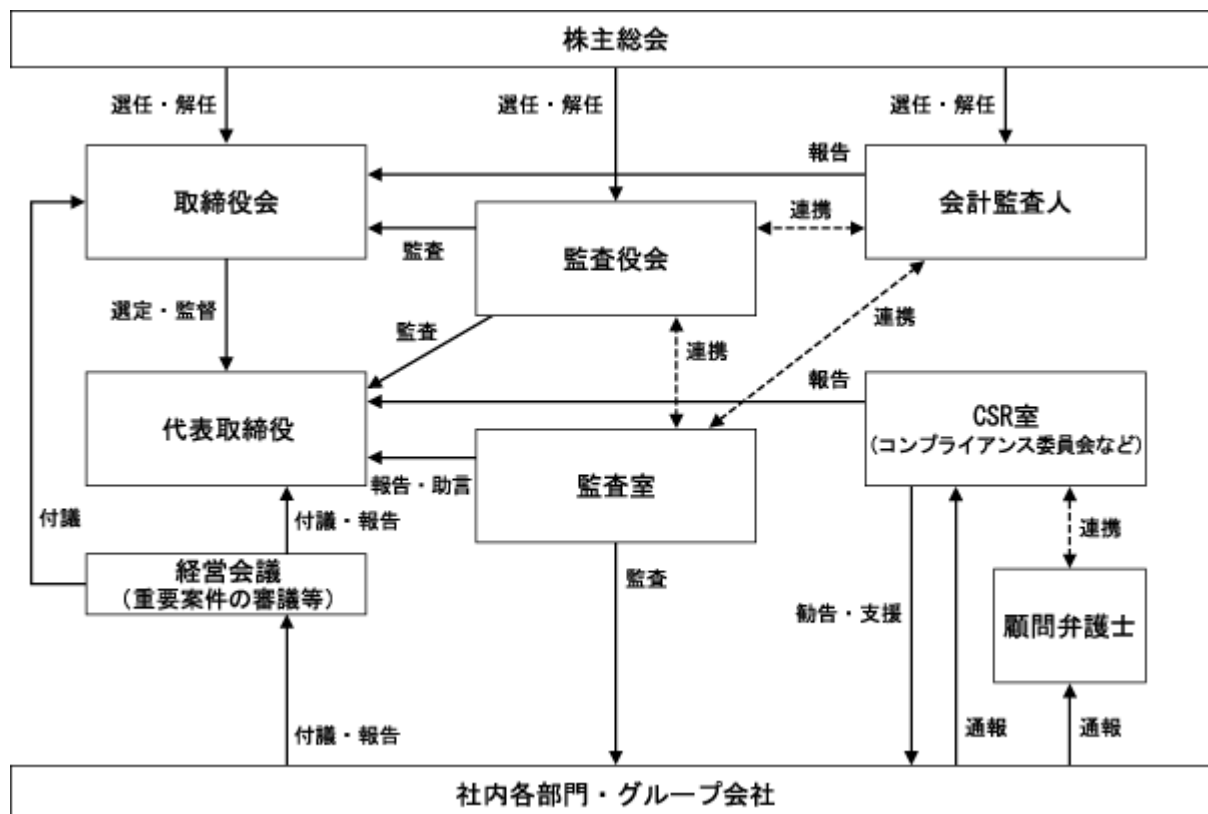
(9) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- a . 当社は、監査役に対し、重要な決裁書類を供覧し、監査役がいつでも経営情報をはじめとする各種の情報を取得できる体制をとる。
- b . 当社は、監査役が取締役、会計監査人と意見及び情報の交換を行う場を提供する。

(10) 反社会的勢力との関係を遮断するための体制

- a . 当社は行動規範に基づき制定された「反社会的勢力との関係遮断」を遂行するための体制をとる。
- b . 反社会的勢力には毅然とした対応をするが、反社会的勢力との接触が生じた場合には、速やかに警察当局及び顧問弁護士等に通報・相談できる体制を整えている。また取引先については、取引開始時に反社会的勢力でないことを確認する。

会社の機関・内部統制の関係を分かりやすく示す図表



内部監査及び監査役監査

内部監査は、専任組織である監査室業務監査課（2名）が業務の適法性・妥当性についての計画的な監査を実施し、その評価結果を都度社長に報告し、取締役及び監査役に周知しています。また、監査室内部統制課（2名）は、財務報告に係る内部統制の有効性評価を行う内部統制推進プロジェクト（9名）の事務局機能を果たしています。なお、監査室は、監査役及び会計監査人と適切な連携を図っております。

監査役監査につきましては、法令及び定款並びにその他の諸規則に準拠して独立した立場で監査を実施しております。また監査役は会計監査人及び監査室と情報・意見交換等適切に連携を図っており、十分な経営チェックを行う体制が整っております。なお社外監査役の内1名は、独立役員として指定しております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。当社と宮直仁、立石則文の両社外監査役との人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はございません。社外監査役の内1名は公認会計士として監査法人、会計事務所における豊富な経験から財務及び会計に関する相当の知見を有する監査役であり、1名は弁護士として高度な専門知識を有する監査役であります。

監査役会は、定期的さらに必要に応じて臨時に開催されているほか、取締役会に出席するとともに、重要な会議への出席、重要な決裁書類の閲覧等を行っております。

取締役とは職責を異にする独立機関であることを充分認識し、積極的に意見の表明を行っており充分な経営チェックを行なえる体制が整っております。

監査役と会計監査人である監査法人は、年間監査計画の確認を行うとともに監査結果の報告を行っております。また、経営者や監査役会と適宜情報・意見交換等を行っております。

社外監査役である宮直仁を一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員として選任しております。

当社は監査役会設置会社であり、社外監査役2名（うち1名を独立役員として指定）を選任しており、それぞれ職歴、経験、知識等を活かし外部的視点から監査を行っており、経営の監視機能を十分に果たし得る客観性及び中立性を確保していると考えています。そのため社外取締役を選任しておりません。

なお、当社は社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準及び方針はございませんが、基本的な考え方は東京証券取引所が定める独立役員の規定に準じております。

自己株式の取得の内容の概要

当社は、資本政策等の遂行を機動的に可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって自己の株式の取得を行うことができる旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役選任の決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

剰余金の配当（中間配当）の決定機関

当社は、会社法第454条第5項の規程により、法令の別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、剰余金の配当（中間配当）を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	206	206	-	-	-	9
監査役 (社外監査役を除く。)	17	17	-	-	-	1
社外役員	22	22	-	-	-	3

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

ニ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

- ・ 取締役の報酬は、年度業績によって変動する業績連動報酬と固定報酬で構成しております。
- ・ 業績連動報酬は、全社の業績及び本人の役割に応じた功績評価に基づき決定しております。
- ・ 監査役の報酬は、固定報酬で構成しております。
- ・ 役員の報酬については、株主総会で決議された報酬総額の範囲で、取締役の報酬は取締役会の決議により、監査役の報酬は監査役会の協議により決定しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 65銘柄
貸借対照表計上額の合計額 863百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)日立製作所	210,000	90	取引企業との業務に関連する株式
JFEホールディングス(株)	30,051	73	〃
(株)みずほフィナンシャルグループ	461,230	63	〃
(株)丸井グループ	99,000	53	〃
昭和電工(株)	299,001	49	〃
旭化成(株)	81,000	45	〃
東京製鐵(株)	40,000	38	〃
日油(株)	95,718	36	〃
東京急行電鉄(株)	100,000	34	〃
北越紀州製紙(株)	75,000	33	〃
(株)リコー	21,950	21	〃
日本精工(株)	29,000	20	〃
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	51,890	19	〃
大日本スクリーン製造(株)	20,724	18	〃
住友重機械工業(株)	29,600	16	〃
ダイダン(株)	23,500	11	〃
高砂熱学工業(株)	16,000	11	〃
(株)セブン&アイ・ホールディングス	4,800	10	〃
新電元工業(株)	26,000	9	〃
マックス(株)	9,396	9	〃
(株)岡村製作所	19,699	9	〃
凸版印刷(株)	13,650	8	〃
(株)堀場製作所	3,654	8	〃
セガサミーホールディングス(株)	6,012	8	〃

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)リコー	140,000	136	議決権行使権限を有する
(株)日立製作所	210,000	90	〃
信越化学工業(株)	17,000	70	〃
(株)セブン&アイ・ホールディングス	31,200	66	〃
(株)丸井グループ	100,000	53	〃
北越紀州製紙(株)	70,000	31	〃

- (注) 1 貸借対照表額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。
- 2 特定投資株式の(株)セブン&アイ・ホールディングス及び新電元工業(株)及びマックス(株)及び(株)岡村製作所及び凸版印刷(株)及び(株)堀場製作所並びにセガサミーホールディングス(株)は、貸借対照表計上額が資本金の100分の1以下であります。特定投資株式とみなし保有株式を合わせて上位30銘柄について記載しております。

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)日立製作所	210,000	111	取引企業との業務に関連する株式
(株)丸井グループ	99,000	68	"
昭和電工(株)	302,868	56	"
JFEホールディングス(株)	30,404	54	"
ラサ商事(株)	100,000	49	"
旭化成(株)	81,000	41	"
北越紀州製紙(株)	75,000	41	"
日油(株)	100,500	40	"
東京急行電鉄(株)	100,000	39	"
東京製鐵(株)	40,000	29	"
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	54,040	22	"
日本精工(株)	29,000	18	"
高砂熱学工業(株)	28,100	18	"
(株)リコー	21,950	17	"
大日本スクリーン製造(株)	21,701	16	"
ダイダン(株)	31,500	16	"
住友重機械工業(株)	29,600	13	"
コナミ(株)	5,563	13	"
(株)岡村製作所	20,847	12	"
(株)セブン&アイ・ホールディングス	4,800	11	"
(株)堀場製作所	3,899	11	"
セガサミーホールディングス(株)	6,318	10	"
マックス(株)	10,021	10	"
新電元工業(株)	26,000	10	"
凸版印刷(株)	13,650	8	"
京浜急行電鉄(株)	11,898	8	"
大和冷機工業(株)	18,720	8	"
(株)伊予銀行	10,000	7	"
日本軽金属(株)	52,000	6	"
三機工業(株)	14,000	6	"

(注) 特定投資株式の住友重機械工業(株)及びコナミ(株)及び(株)岡村製作所及び(株)セブン & アイ・ホールディングス及び(株)堀場製作所及びセガサミーホールディングス(株)及びマックス(株)及び新電元工業(株)及び凸版印刷(株)及び京浜急行電鉄(株)及び大和冷機工業(株)及び(株)伊予銀行及び日本軽金属(株)並びに三機工業(株)は、貸借対照表計上額が資本金の100分の1以下であります。上位30銘柄について記載しております。

八 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

当社の会計監査業務は、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結しており、監査業務を執行した公認会計士は、有限責任 あずさ監査法人所属の平井 清 氏、栗原 幸夫 氏の2名であり、監査業務に係る補助者（公認会計士6名、その他6名）とともに定期的、さらに必要に応じて監査業務を行っております。会計監査人は、監査役と年間監査計画の確認を行うとともに監査結果の報告を行っております。また、経営者や監査役会と適宜情報・意見交換等を行っております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	43	1	40	3
連結子会社	-	-	-	-
合計	43	1	40	3

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

IFRS（国際財務報告基準）に関するアドバイザリー契約を締結しております。

当連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、内部統制の指導・助言業務及びコンフォートレターの作成であります。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日程等を勘案した上で決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条の規定に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）により作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

企業会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、研修等に参加することにより情報収集を行っております。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,437	7,382
受取手形及び売掛金	23,436	25,926 ⁵
有価証券	624	322
商品	3,422	3,728
原材料	-	4
未成工事支出金	96	212
仕掛品	-	89
未収入金	3,843 ⁴	5,539 ⁴
繰延税金資産	341	348
その他	128	350
貸倒引当金	90	132
流動資産合計	38,239	43,772
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,682	1,903
減価償却累計額	1,212	1,330
建物(純額)	470 ²	572 ²
機械装置及び運搬具	30	153
減価償却累計額	25	103
機械装置及び運搬具(純額)	5	50
工具、器具及び備品	720	758
減価償却累計額	606	624
工具、器具及び備品(純額)	113	133
土地	579 ²	734 ²
有形固定資産合計	1,168	1,491
無形固定資産		
ソフトウェア	273	142
ソフトウェア仮勘定	339	1,024
のれん	-	287
その他	14	12
無形固定資産合計	627	1,465
投資その他の資産		
投資有価証券	1,308 ¹	1,713 ¹
破産更生債権等	39	39
繰延税金資産	615	428
その他	202	252
貸倒引当金	74	74
投資その他の資産合計	2,091	2,359
固定資産合計	3,887	5,316
資産合計	42,126	49,088

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 20,830	2 22,738
短期借入金	310	2 350
未払金	4 4,982	4 7,220
未払法人税等	349	559
賞与引当金	516	540
その他	1,314	1,852
流動負債合計	28,303	33,262
固定負債		
長期借入金	-	2 465
退職給付引当金	1,385	1,387
繰延税金負債	1	15
資産除去債務	8	8
その他	221	181
固定負債合計	1,616	2,057
負債合計	29,920	35,320
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,176	1,585
資本剰余金	627	1,037
利益剰余金	9,956	10,596
自己株式	0	0
株主資本合計	11,760	13,218
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	76	158
その他の包括利益累計額合計	76	158
少数株主持分	368	391
純資産合計	12,206	13,768
負債純資産合計	42,126	49,088

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高		
商品売上高	82,604	58,643
工事売上高	12,804	16,529
売上高合計	95,409	75,173
売上原価		
商品売上原価	74,377	50,021
工事売上原価	11,195	14,276
売上原価合計	85,573	64,298
売上総利益		
商品売上総利益	8,226	8,621
工事売上総利益	1,609	2,253
売上総利益合計	9,836	10,874
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	4,116	4,084
賞与引当金繰入額	473	494
退職給付費用	656	611
法定福利費	575	602
地代家賃	273	264
貸倒引当金繰入額	1	35
減価償却費	202	250
運送費及び保管費	387	396
旅費及び通信費	699	713
その他	1,472	1,700
販売費及び一般管理費合計	8,859	9,152
営業利益	977	1,722
営業外収益		
受取利息	7	8
受取配当金	26	29
仕入割引	23	23
不動産賃貸料	68	53
その他	71	49
営業外収益合計	197	164
営業外費用		
支払利息	3	8
売上割引	4	4
不動産賃貸原価	41	21
売上債権売却損	29	5
支払手数料	4	-
株式交付費	-	26
その他	8	7
営業外費用合計	93	73
経常利益	1,081	1,813

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	0	0
会員権売却益	0	0
負ののれん発生益	5	-
固定資産売却益	-	² 77
保険解約返戻金	-	24
その他	0	1
特別利益合計	6	104
特別損失		
固定資産除却損	³ 3	³ 2
投資有価証券評価損	3	3
投資有価証券売却損	0	81
減損損失	-	⁴ 3
事務所移転費用	5	2
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	7	-
その他	2	2
特別損失合計	21	96
税金等調整前当期純利益	1,067	1,821
法人税、住民税及び事業税	524	764
法人税等調整額	44	134
法人税等合計	479	899
少数株主損益調整前当期純利益	587	922
少数株主利益	10	32
当期純利益	577	889

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	587	922
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	117	81
その他の包括利益合計	117	81
包括利益	469	1,003
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	471	971
少数株主に係る包括利益	1	32

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,176	1,176
当期変動額		
新株の発行	-	409
当期変動額合計	-	409
当期末残高	1,176	1,585
資本剰余金		
当期首残高	462	627
当期変動額		
新株の発行	165	409
当期変動額合計	165	409
当期末残高	627	1,037
利益剰余金		
当期首残高	9,622	9,956
当期変動額		
剰余金の配当	243	249
当期純利益	577	889
当期変動額合計	333	640
当期末残高	9,956	10,596
自己株式		
当期首残高	0	0
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	0	0
株主資本合計		
当期首残高	11,261	11,760
当期変動額		
新株の発行	165	818
剰余金の配当	243	249
当期純利益	577	889
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	499	1,458
当期末残高	11,760	13,218

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	182	76
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	105	81
当期変動額合計	105	81
当期末残高	76	158
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	182	76
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	105	81
当期変動額合計	105	81
当期末残高	76	158
少数株主持分		
当期首残高	565	368
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	196	22
当期変動額合計	196	22
当期末残高	368	391
純資産合計		
当期首残高	12,009	12,206
当期変動額		
新株の発行	165	818
剰余金の配当	243	249
当期純利益	577	889
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	302	103
当期変動額合計	197	1,562
当期末残高	12,206	13,768

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,067	1,821
減価償却費	208	261
負ののれん発生益	5	-
減損損失	-	3
有形固定資産売却損益（は益）	-	77
有形固定資産除却損	3	2
投資有価証券評価損益（は益）	3	3
投資有価証券売却損益（は益）	0	81
会員権売却損益（は益）	0	0
株式交付費	-	26
保険解約返戻金	-	24
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	7	-
貸倒引当金の増減額（は減少）	7	35
賞与引当金の増減額（は減少）	98	8
退職給付引当金の増減額（は減少）	50	63
受取利息及び受取配当金	33	38
支払利息	3	8
売上債権の増減額（は増加）	11,903	1,531
たな卸資産の増減額（は増加）	5	432
仕入債務の増減額（は減少）	11,926	1,196
未収消費税等の増減額（は増加）	41	16
未払消費税等の増減額（は減少）	66	39
未収入金の増減額（は増加）	544	1,697
未払金の増減額（は減少）	836	2,149
預り金の増減額（は減少）	4	30
その他	11	35
小計	1,086	1,691
利息及び配当金の受取額	33	38
利息の支払額	3	8
法人税等の支払額	252	596
法人税等の還付額	82	7
営業活動によるキャッシュ・フロー	945	1,132

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	36	106
有形固定資産の売却による収入	1	149
有形固定資産の除却による支出	1	0
無形固定資産の取得による支出	108	619
投資有価証券の取得による支出	73	473
投資有価証券の売却による収入	5	92
投資有価証券の償還による収入	50	400
保険積立金の解約による収入	-	115
子会社株式の取得による支出	-	² 530
その他	22	32
投資活動によるキャッシュ・フロー	184	941
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	10	15
長期借入れによる収入	-	430
長期借入金の返済による支出	-	220
株式の発行による収入	-	791
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	242	249
少数株主への配当金の支払額	23	10
財務活動によるキャッシュ・フロー	256	727
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	0
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	500	917
現金及び現金同等物の期首残高	6,104	6,605
現金及び現金同等物の期末残高	¹ 6,605	¹ 7,522

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

4社

連結子会社の名称

連結子会社名は「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

また、幸栄電機(株)は平成23年10月3日の株式の取得に伴い、当連結会計年度より連結子会社となりました。

(2) 非連結子会社名

Hong Kong Yashima Denki Limited(香港八洲電機有限公司)

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社Hong Kong Yashima Denki Limited(香港八洲電機有限公司)は、小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の会社等の名称

Hong Kong Yashima Denki Limited(香港八洲電機有限公司)

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

a 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

b その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

a 商品

総平均法

b 原材料

最終仕入原価法

c 未成工事支出金

個別法

d 仕掛品

個別法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。ただし、平成10年4月以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法を採用しております。なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却によっております。

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額までに償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、ソフトウェア（自社利用）については、主として社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(会計上の見積りの変更)

当社グループが保有する基幹系システムに対応するソフトウェアは、業務の効率化及び低コスト体質への実行と営業支援体制の強化を図るため、「新基幹系システム」を稼動することに伴い、耐用年数を主に5年から4年6か月に短縮しております。

これにより、従来の方と比べて、当連結会計年度の減価償却費が40百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ同額減少しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

長期前払費用

均等償却によっております。

(3) 重要な繰延資産の処理方法

株式交付費

支出時に全額費用処理しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

なお、過去勤務債務については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を費用処理しております。数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額をそれぞれ発生の翌連結会計年度より費用処理しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

工事売上高及び工事売上原価の計上基準

工事売上高の計上は当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

6年間で均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日又は償還日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【追加情報】

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正により、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	47百万円	47百万円

2 担保資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保資産

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物	177百万円	282百万円
土地	29百万円	223百万円
合計	207百万円	505百万円

担保付債務

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
支払手形及び買掛金	1,250百万円	1,250百万円
割引手形	-百万円	86百万円
短期借入金	-百万円	40百万円
長期借入金	-百万円	201百万円
合計	1,250百万円	1,577百万円

3 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形割引高	-百万円	126百万円
受取手形裏書譲渡高	3百万円	52百万円

4 包括代理受注契約に基づく取引残高

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
未収入金	3,759百万円	5,458百万円
未払金	4,310百万円	6,346百万円

包括代理受注契約とは、請負者の代理人として契約し、その権利・義務を承継する取引であります。

5 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	-百万円	241百万円

(連結損益計算書関係)

1 営業外費用に計上されている支払手数料は、取引銀行との間に設定されたコミットメントラインに係るコミットメントフィーであります。

2 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	- 百万円	3百万円
工具、器具及び備品	- 百万円	2百万円
土地	- 百万円	71百万円
合計	- 百万円	77百万円

3 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	2百万円	0百万円
工具、器具及び備品	0百万円	2百万円
合計	3百万円	2百万円

4 減損損失

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所
遊休資産	電話加入権	東京都

当社グループは、原則として、継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分(会社別、事業別かつ事業所別)を単位としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。なお、回収可能価額は市場価格等に基づく正味売却価額によっております。

上記の電話加入権については、遊休状態であり、帳簿価額に対し市場価格が著しく下落しているため、回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(3百万円)として特別損失に計上いたしました。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	38百万円
組替調整額	80百万円
税効果調整前	118百万円
税効果額	37百万円
その他有価証券評価差額金	81百万円
その他の包括利益合計	81百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	18,720,000	487,500	-	19,207,500

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

株式交換に伴う新株の発行による増加 487,500株

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	725	320	-	1,045

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取による増加 320株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	243	13.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	249	13.00	平成23年3月31日	平成23年6月29日

当連結会計年度（自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	19,207,500	2,575,000	-	21,782,500

（変動事由の概要）

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

公募増資による増加 2,200,000株

第三者割当増資による増加 375,000株

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	1,045	64	-	1,109

（変動事由の概要）

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取による増加 64株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年 6 月28日 定時株主総会	普通株式	249	13.00	平成23年 3 月31日	平成23年 6 月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 6 月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	326	15.00	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金	6,437百万円	7,382百万円
有価証券	624百万円	322百万円
計	7,062百万円	7,705百万円
預入期間3か月超の定期預金	57百万円	172百万円
MMFを除く有価証券	400百万円	10百万円
現金及び現金同等物	6,605百万円	7,522百万円

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たに連結子会社となった会社の連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得による支出は(純額)との関係は次のとおりであります。

幸栄電機(株)(平成23年9月30日現在)

流動資産	914百万円
固定資産	588百万円
のれん	313百万円
流動負債	629百万円
固定負債	402百万円
幸栄電機(株)の取得価額	785百万円
幸栄電機(株)の現金及び現金同等物	254百万円
差引：幸栄電機(株)の取得による支出	530百万円

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	59	50	8

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	15	13	1

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	6	1
1年超	2	-
合計	8	1

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	14	5
減価償却費相当額	13	5
支払利息相当額	0	0

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

・減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

・利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されていますが、金額が僅少であります。有価証券及び投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び取引企業との業務に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。短期借入金は、主に営業取引に係る資金調達であります。長期借入金は、設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、返済日は決算日後、最長で5年後であります。なお、借入金の金利は固定金利を採用しており、金利の変動リスクはありません。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理規程に従い、調査部門が各得意先の信用状態に関する資料を集中管理し、取引上の参考に資するとともに必要事項を関係部署に伝達することにより、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を行っております。

連結子会社についても、当社の与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

満期保有目的の債券は、格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき財務部が適時に資金繰計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

該当事項はありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません（注2）を参照ください。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	6,437	6,437	-
(2) 受取手形及び売掛金	23,436	23,436	-
(3) 未収入金	3,843	3,843	-
(4) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	550	551	1
その他有価証券	1,325	1,325	-
資産計	35,592	35,593	1
(1) 支払手形及び買掛金	20,830	20,830	-
(2) 短期借入金	310	310	-
(3) 未払金	4,982	4,982	-
(4) 未払法人税等	349	349	-
負債計	26,472	26,472	-

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	7,382	7,382	-
(2) 受取手形及び売掛金	25,926	25,926	-
(3) 未収入金	5,539	5,539	-
(4) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	569	570	0
その他有価証券	1,414	1,414	-
資産計	40,833	40,833	0
(1) 支払手形及び買掛金	22,738	22,738	-
(2) 短期借入金	350	350	-
(3) 未払金	7,220	7,220	-
(4) 未払法人税等	559	559	-
(5) 長期借入金	465	465	0
負債計	31,334	31,334	0

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金、並びに(3)未収入金

これらは短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。MMF等は短期間で決済される為、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1)支払手形及び買掛金、(2)短期借入金、(3)未払金、並びに(4)未払法人税等

これらは短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5)長期借入金

この時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価額により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成23年3月31日	平成24年3月31日
非上場株式	10	4
子会社株式	47	47

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)
現金及び預金	57	-	-
受取手形及び売掛金	23,436	-	-
未収入金	3,843	-	-
有価証券のうち満期があるもの			
満期保有目的の債券(国債・社債)	400	150	-
合計	27,737	150	-

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)
現金及び預金	172	-	-
受取手形及び売掛金	25,926	-	-
未収入金	5,539	-	-
有価証券のうち満期があるもの			
満期保有目的の債券(国債・社債)	-	464	105
其他有価証券のうち満期があるもの(MMF等)	322	-	-
合計	31,961	464	105

(注4) 長期借入金及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

その他有利子負債の長期預り保証金については、取引先と当社との間で債権等の弁済を担保するため返済期限が定まっておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)
長期借入金	194	131	61	55	22

(注) その他有利子負債の長期預り保証金については、取引先と当社との間で債権等の弁済を担保するため返済期限が定まっておりません。

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

区分	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの			
国債・地方債等	100	100	0
社債	400	401	1
小計	500	501	1
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの			
社債	50	49	0
小計	50	49	0
合計	550	551	1

当連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの			
国債・地方債等	99	100	0
社債	318	319	0
小計	418	419	1
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの			
社債	151	150	0
小計	151	150	0
合計	569	570	0

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

区分	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	849	623	225
小計	849	623	225
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	476	581	105
小計	476	581	105
合計	1,325	1,204	120

当連結会計年度（平成24年3月31日）

区分	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式	962	708	254
小計	962	708	254
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式	452	468	16
小計	452	468	16
合計	1,414	1,177	237

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	5	0	0
合計	5	0	0

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	92	0	81
合計	92	0	81

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付企業年金制度、厚生年金基金制度及び退職一時金制度並びに確定拠出年金制度を設けております。

厚生年金基金制度は東京都電設工業厚生年金基金に加入しております。当該厚生年金基金は総合設立型厚生年金基金であり、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、退職給付に係る会計基準(企業会計審議会 平成10年6月16日)注解12(複数事業主制度の企業年金について)により、年金基金への要拠出額(従業員拠出額を除く)を退職給付費用として処理しております。

なお、当該年金基金の年金資産総額のうち、平成24年3月31日現在の加入人員割合を基準として計算した当社グループの年金資産額は、4,772百万円であります。

また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

・要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項

(1)制度全体の積立金に関する事項

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
年金資産の額	164,815	158,889
年金財政計算上の給付債務の額	192,032	189,221
差引額	27,217	30,331

(2)制度全体に占める当社グループの掛け金拠出割合

前連結会計年度 3.1%(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当連結会計年度 3.0%(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(3)補足説明

本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年元利均等償却であり、当社グループは、当期の連結財務諸表上、特別掛金を前連結会計年度89百万円、当連結会計年度85百万円費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

2 退職給付債務に関する事項

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1)退職給付債務	6,402	6,346
(2)未認識過去勤務債務(債務の減額)	751	658
(3)未認識数理計算上の差異	1,447	1,535
(4)年金資産(退職給付信託を含む)	4,320	4,082
(5)退職給付引当金	1,385	1,387

(注) 退職給付債務の算定にあたり、一部の連結子会社について簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(1)勤務費用	144	109
(2)利息費用	144	128
(3)期待運用収益	76	75
(4)過去勤務債務の費用処理額	47	92
(5)数理計算上の差異の費用処理額	182	182
小計	347	251
(6)厚生年金基金拠出額	226	217
(7)確定拠出型年金制度への掛金等	142	207
合計	717	677

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
2.0%	2.0%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
2.0%	2.0%

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理しております。)

(5) 数理計算上の差異の処理年数

10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理しております。)

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(繰延税金資産)		
流動資産		
未払事業税	29百万円	43百万円
賞与引当金	211百万円	206百万円
貸倒引当金	33百万円	47百万円
未払費用	30百万円	30百万円
その他	35百万円	23百万円
繰延税金資産合計	341百万円	351百万円
繰延税金負債(流動)との相殺額	-百万円	3百万円
繰延税金資産の純額	341百万円	348百万円
固定資産		
退職給付引当金	656百万円	499百万円
長期未払金	39百万円	41百万円
会員権	40百万円	35百万円
固定資産に係る内部利益等	0百万円	0百万円
その他	16百万円	46百万円
小計	753百万円	623百万円
評価性引当額	95百万円	91百万円
繰延税金資産合計	658百万円	532百万円
繰延税金負債(固定)との相殺	42百万円	103百万円
繰延税金資産の純額	615百万円	428百万円
(繰延税金負債)		
流動負債		
未収事業税	-百万円	3百万円
小計	-百万円	3百万円
繰延税金負債合計	-百万円	3百万円
繰延税金資産(流動)との相殺額	-百万円	3百万円
繰延税金負債の純額	-百万円	-百万円
固定負債		
その他有価証券評価差額金	44百万円	80百万円
その他	-百万円	38百万円
繰延税金負債合計	44百万円	119百万円
繰延税金資産(固定)との相殺	42百万円	103百万円
繰延税金負債の純額	1百万円	15百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.69%	40.69%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.14%	2.13%
評価性引当額	1.12%	0.08%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.71%	0.46%
住民税均等割等	1.92%	1.10%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	- %	5.04%
その他	1.01%	0.95%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.93%	49.37%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の40.69%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.01%、平成27年4月1日以降のものについては35.64%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が80百万円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が91百万円、その他有価証券評価差額金が11百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

取得による企業結合

当社は平成23年8月24日開催の取締役会において、配電盤・分電盤・中央監視盤・計装盤・制御盤などの設計・製作及びメンテナンスを主たる事業とする幸栄電機株式会社の全株式を取得することを決議し、平成23年8月29日に株式譲渡契約を締結いたしました。これにより、同社は、平成23年10月3日付で当社の完全子会社となりました。

(1)被取得企業の名称及び事業の内容、規模、企業結合を行った主な理由、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称、取得した議決権比率、取得企業を決定するに至った主な根拠

被取得企業の名称、事業内容及び規模(平成23年9月期)

被取得企業	幸栄電機株式会社
事業の内容	各種電気機器の設計・製作・販売ほか
規模	資本金： 10百万円
	総資産： 1,446百万円
	売上高： 1,647百万円

企業結合を行った主な理由

当社は中核事業でありますシステム・ソリューション事業において、鉄鋼・石油・化学などのプラントシステム分野、薬品・食品・精密電子などの産業システム分野、鉄道・上下水道・電力などの社会システム分野など幅広い分野に、電気機器の販売及び設備の設計・施工などシステムソリューションを展開しております。

この度、株式を取得し子会社化する幸栄電機株式会社は、配電盤・分電盤・中央監視盤・計装盤・制御盤などの設計・製作及びメンテナンスを主たる事業としております。

これまで当社は、更なる業容の拡大・拡充を図るべくシステム・ソリューション事業において、特に技術面でのシナジー効果を共有し得る戦略的なアライアンスについて、様々な角度で検討を続けてまいりました。

その結果、システム・ソリューション事業における新規主要顧客の獲得や、これまで当社が長年培った受変電技術力と幸栄電機株式会社の有する技術力をもって受変電設備から制御盤までのトータルソリューションをお客様に提供することができ、シナジー効果が中長期的に見込まれることなど総合的に勘案し幸栄電機株式会社の全株式を取得し、子会社化することといたしました。

企業結合日

平成23年10月3日

企業結合の法的形式

株式取得

結合後企業の名称

幸栄電機株式会社

取得した議決権比率

取得前の議決権比率 - %

取得後の議決権比率 100%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として幸栄電機株式会社の株式を100%取得したためであります。

(2)連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成23年10月1日から平成24年3月31日

(3)被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	780百万円
取得に直接要した費用 アドバイザリー費用等	5百万円
取得原価	785百万円

(4)発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん

313百万円

発生原因

将来における超過収益力によるものであります。

償却方法及び償却期間

6年間にわたる均等償却

(5)企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	914百万円
固定資産	588百万円
資産合計	1,503百万円
流動負債	629百万円
固定負債	402百万円
負債合計	1,031百万円

(6)企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

売上高	1,678百万円
営業利益	13百万円
経常利益	86百万円
税金等調整前当期純利益	95百万円
当期純利益	38百万円

(概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された売上高及び損益情報を影響の概算額としております。なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度末(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

資産除去債務の金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

当連結会計年度末(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

資産除去債務の金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

賃貸等不動産の金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

賃貸等不動産の金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1)報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・取引先別の事業本部を置き、各事業本部は取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は事業本部を基礎とした製品・取引先別セグメントから構成されており、「システム・ソリューション事業」及び「電子デバイス・コンポーネント事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2)各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「システム・ソリューション事業」は、主に鉄鋼システム、鉄道関連システム、受変電システムを販売しております。

「電子デバイス・コンポーネント事業」は、主に半導体関連、表示パネル用液晶ディスプレイを販売しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1、2	連結財務諸表 計上額 (注)3
	システム・ソ リューション事 業	電子デバイス・ コンポーネント 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	56,342	39,066	95,409	-	95,409
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	56,342	39,066	95,409	-	95,409
セグメント利益	1,814	572	2,387	1,410	977
セグメント資産	25,959	5,934	31,893	10,232	42,126
その他の項目					
減価償却費	132	22	154	53	208
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	264	58	323	115	438

(注) 1 セグメント利益の調整額の主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

2 セグメント資産の調整額の主なものは、親会社での余資運用資金(預金及び有価証券)、長期性投資資金(投資有価証券)及び総務部門等管理部門に係る資産等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1、2	連結財務諸表 計上額 (注) 3
	システム・ソ リューション事 業	電子デバイス・ コンポーネント 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	60,094	15,079	75,173	-	75,173
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	60,094	15,079	75,173	-	75,173
セグメント利益	3,139	142	3,282	1,560	1,722
セグメント資産	31,409	6,365	37,774	11,313	49,088
その他の項目					
減価償却費	176	19	195	65	261
のれんの償却額	26	-	26	-	26
特別損失					
(減損損失)	3	-	3	-	3
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	548	94	643	138	781

(注) 1 セグメント利益の調整額の主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

2 セグメント資産の調整額の主なものは、親会社での余資運用資金(預金及び有価証券)、長期性投資資金(投資有価証券)及び総務部門等管理部門に係る資産等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	アジア	その他	合計
66,517	28,869	22	95,409

（注）売上高は顧客の仕向地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
任天堂㈱	28,809	電子デバイス・コンポーネント事業

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	アジア	その他	合計
70,223	4,942	6	75,173

（注）売上高は顧客の仕向地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			全社・消去	合計
	システム・ソリューション事業	電子デバイス・コンポーネント事業	計		
当期末残高	287	-	287	-	287

（注）のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

システム・ソリューション事業において平成23年3月25日を効力発生日として、簡易株式交換により、(株)ヤシマ・エコ・システムを完全子会社化いたしました。

これに伴い当連結会計年度において、5百万円の負ののれん発生益を計上しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	616.31円	614.15円
1株当たり当期純利益金額	30.83円	44.52円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益(百万円)	577	889
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	577	889
普通株式の期中平均株式数(千株)	18,728	19,987

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	12,206	13,768
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	368	391
(うち少数株主持分)(百万円)	(368)	(391)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	11,837	13,376
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	19,206	21,781

（重要な後発事象）

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区 分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	310	350	0.62	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	194	1.13	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	-	270	1.39	平成25年4月30日～ 平成28年11月30日
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	-	-	-	-
その他有利子負債 預り保証金	82	66	1.08	-
合計	392	881	-	-

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しており、加重平均利率の算出方法は、借入金等の期末残高に対するものだけを捉える方法によっております。

2 預り保証金は、取引先と当社との間で債権等の弁済を担保するため返済期限が定まっておりませんので、「連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額」は記載しておりません。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	131	61	55	22

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高 (百万円)	14,406	35,365	50,994	75,173
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	297	806	772	1,821
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	172	410	274	889
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	8.99	21.37	14.16	44.52

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額又は 1株当たり 四半期純損失金額() (円)	8.99	12.39	6.86	28.26

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,252	6,828
受取手形	1,606	5 2,590
売掛金	1 18,777	1 22,018
商品	3,020	3,724
未成工事支出金	29	156
前渡金	41	249
未収入金	1, 4 2,798	1, 4 4,138
短期貸付金	1 791	1 304
前払費用	30	29
繰延税金資産	234	289
その他	0	4
貸倒引当金	72	126
流動資産合計	33,512	40,206
固定資産		
有形固定資産		
建物		
建物	1,453	1,671
減価償却累計額	1,080	1,231
建物（純額）	2 372	2 439
機械及び装置		
機械及び装置	29	36
減価償却累計額	24	27
機械及び装置（純額）	5	8
工具、器具及び備品		
工具、器具及び備品	593	636
減価償却累計額	487	521
工具、器具及び備品（純額）	106	115
土地		
土地	2 403	2 509
有形固定資産合計	886	1,073
無形固定資産		
ソフトウェア	211	106
ソフトウェア仮勘定	339	1,024
その他	10	10
無形固定資産合計	560	1,140
投資その他の資産		
投資有価証券	828	863
関係会社株式	320	921
出資金	0	-
破産更生債権等	-	39
長期前払費用	0	-
繰延税金資産	466	321
その他	159	127
貸倒引当金	32	72
投資その他の資産合計	1,742	2,201
固定資産合計	3,190	4,415
資産合計	36,702	44,621

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1, 2 19,055	1, 2 22,273
短期借入金	310	310
未払金	1, 4 3,850	1, 4 5,739
未払費用	209	232
未払法人税等	268	431
未払消費税等	60	97
前受金	751	1,246
預り金	91	53
前受収益	5	4
賞与引当金	368	448
流動負債合計	24,972	30,836
固定負債		
長期借入金	-	189
退職給付引当金	1,051	1,048
資産除去債務	8	8
その他	192	148
固定負債合計	1,253	1,395
負債合計	26,225	32,232
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,176	1,585
資本剰余金		
資本準備金	627	1,037
資本剰余金合計	627	1,037
利益剰余金		
利益準備金	203	203
その他利益剰余金		
別途積立金	4,834	4,834
繰越利益剰余金	3,551	4,582
利益剰余金合計	8,588	9,619
自己株式	0	0
株主資本合計	10,392	12,241
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	84	148
評価・換算差額等合計	84	148
純資産合計	10,477	12,389
負債純資産合計	36,702	44,621

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高		
商品売上高	1 75,149	1 55,757
工事売上高	1 11,073	1 15,593
売上高合計	86,222	71,350
売上原価		
商品期首たな卸高	2,845	3,020
当期商品仕入高	1 69,037	1 49,198
会社分割による商品受入高	-	377
合計	71,883	52,596
商品期末たな卸高	3,020	3,724
商品売上原価	68,862	48,872
工事売上原価	1 9,792	1 13,486
売上原価合計	78,655	62,358
売上総利益		
商品売上総利益	6,286	6,885
完成工事総利益	1,280	2,106
売上総利益合計	7,566	8,992
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	3,040	3,308
賞与	382	417
賞与引当金繰入額	355	425
退職給付費用	510	514
法定福利費	426	491
地代家賃	205	199
減価償却費	169	200
運送費及び保管費	296	384
旅費及び通信費	519	569
貸倒引当金繰入額	-	42
その他	897	1,138
販売費及び一般管理費合計	6,803	7,693
営業利益	762	1,298
営業外収益		
受取利息	4	2
受取配当金	1 89	1 43
仕入割引	17	22
不動産賃貸料	1 76	1 45
業務受託料	1 86	1 100
その他	57	56
営業外収益合計	331	270

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業外費用		
支払利息	2	6
売上割引	4	4
不動産賃貸原価	29	13
売上債権売却損	29	5
支払手数料	2 4	-
株式交付費	-	26
その他	8	3
営業外費用合計	79	58
経常利益	1,015	1,509
特別利益		
抱合せ株式消滅差益	-	3 484
固定資産売却益	-	4 77
投資有価証券売却益	0	0
貸倒引当金戻入額	1	-
会員権売却益	0	0
その他	0	26
特別利益合計	2	587
特別損失		
固定資産除却損	5 3	5 1
投資有価証券評価損	3	2
投資有価証券売却損	-	81
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	7	-
その他	1	-
特別損失合計	15	85
税引前当期純利益	1,002	2,011
法人税、住民税及び事業税	442	631
法人税等調整額	32	100
法人税等合計	410	731
当期純利益	591	1,280

【完成工事原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		3,366	34.4	6,724	49.9
労務費		-	-	-	-
外注費		6,189	63.2	6,349	47.1
経費		237	2.4	412	3.1
(うち人件費)		(175)	(1.8)	(252)	(1.9)
計		9,792	100.0	13,486	100.0

(注) 原価計算の方法は、個別原価計算であります。

なお、原価差額は工事売上原価及び未成工事支出金に配賦しております。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,176	1,176
当期変動額		
新株の発行	-	409
当期変動額合計	-	409
当期末残高	1,176	1,585
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	462	627
当期変動額		
新株の発行	165	409
当期変動額合計	165	409
当期末残高	627	1,037
資本剰余金合計		
当期首残高	462	627
当期変動額		
新株の発行	165	409
当期変動額合計	165	409
当期末残高	627	1,037
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	203	203
当期末残高	203	203
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	4,834	4,834
当期末残高	4,834	4,834
繰越利益剰余金		
当期首残高	3,203	3,551
当期変動額		
剰余金の配当	243	249
当期純利益	591	1,280
当期変動額合計	348	1,030
当期末残高	3,551	4,582
利益剰余金合計		
当期首残高	8,240	8,588
当期変動額		
剰余金の配当	243	249
当期純利益	591	1,280
当期変動額合計	348	1,030
当期末残高	8,588	9,619

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
自己株式		
当期首残高	0	0
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	0	0
株主資本合計		
当期首残高	9,879	10,392
当期変動額		
新株の発行	165	818
剰余金の配当	243	249
当期純利益	591	1,280
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	513	1,848
当期末残高	10,392	12,241
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	158	84
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	74	64
当期変動額合計	74	64
当期末残高	84	148
評価・換算差額等合計		
当期首残高	158	84
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	74	64
当期変動額合計	74	64
当期末残高	84	148
純資産合計		
当期首残高	10,038	10,477
当期変動額		
新株の発行	165	818
剰余金の配当	243	249
当期純利益	591	1,280
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	74	64
当期変動額合計	438	1,912
当期末残高	10,477	12,389

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(1) 商品

総平均法

(2) 未成工事支出金

個別法

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。ただし、平成10年4月以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却によっております。

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌事業年度から5年間で均等償却する方法によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用)については、主として社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(会計上の見積りの変更)

当社が保有する基幹系システムに対応するソフトウェアは、業務の効率化及び低コスト体質への実行と営業支援体制の強化を図るため、「新基幹系システム」を稼動することに伴い、耐用年数を主に5年から4年6か月に短縮しております。

これにより、従来の方法に比べて当事業年度の減価償却費が24百万円増加し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ同額減少しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

均等償却によっております。

4. 繰延資産の処理方法

株式交付費

支出時に全額費用処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。

なお、過去勤務債務については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を費用処理しております。数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額をそれぞれ発生の翌事業年度より費用処理しております。

6. 収益及び費用の計上基準

工事売上高及び工事売上原価の計上基準

工事売上高の計上は当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によりしております。

【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
売掛金	39百万円	200百万円
未収入金	19百万円	22百万円
短期貸付金	791百万円	304百万円
買掛金	377百万円	546百万円
未払金	12百万円	11百万円

2 担保資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保資産

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
建物	177百万円	161百万円
土地	29百万円	29百万円
合計	207百万円	190百万円

担保付債務

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
買掛金	1,250百万円	1,250百万円

3 受取手形裏書譲渡高

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形裏書譲渡高	3百万円	52百万円

4 包括代理受注契約に基づく取引残高

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
未収入金	2,732百万円	4,047百万円
未払金	3,235百万円	4,935百万円

包括代理受注契約とは、請負者の代理人として契約し、その権利・義務を継承する取引であります。

5 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	211百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社に対する取引高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高	281百万円	764百万円
仕入高	1,502百万円	1,577百万円
不動産賃貸料	30百万円	37百万円
業務受託料	76百万円	92百万円
受取配当金	72百万円	22百万円

2 営業外費用に計上されている支払手数料は、取引銀行との間に設定されたコミットメントラインに係るコミットメントフィーであります。

3 抱合せ株式消滅差益は、当社の完全子会社である(株)ヤシマ・エコ・システムを分割会社とし、当社を承継会社とする吸収分割に伴い計上したものであります。

4 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	- 百万円	3百万円
工具、器具及び備品	- 百万円	2百万円
土地	- 百万円	71百万円
合計	- 百万円	77百万円

5 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	2百万円	0百万円
工具、器具及び備品	1百万円	1百万円
合計	3百万円	1百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	725	320	-	1,045

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取による増加 320株

当事業年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	1,045	64	-	1,109

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取による増加 64株

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	16	13	2

(単位：百万円)

	当事業年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	6	5	0

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	2	0
1年超	0	-
合計	3	0

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	3	2
減価償却費相当額	3	2
支払利息相当額	0	0

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

・減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

・利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(有価証券関係)

子会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
子会社株式	320	921

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(繰延税金資産)		
流動資産		
未払事業税	22百万円	33百万円
貸倒引当金	28百万円	47百万円
賞与引当金	150百万円	170百万円
その他	33百万円	38百万円
繰延税金資産合計	234百万円	289百万円
固定資産		
退職給付引当金	516百万円	373百万円
会員権	17百万円	15百万円
長期未払金	34百万円	29百万円
その他	11百万円	34百万円
小計	579百万円	453百万円
評価性引当額	63百万円	56百万円
繰延税金資産合計	515百万円	397百万円
繰延税金負債(固定)との相殺額	49百万円	75百万円
繰延税金資産の純額	466百万円	321百万円
(繰延税金負債)		
固定負債		
その他有価証券評価差額金	49百万円	75百万円
繰延税金負債合計	49百万円	75百万円
繰延税金資産(固定)との相殺額	49百万円	75百万円
繰延税金負債の純額	- 百万円	- 百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	- %	40.69%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	- %	1.64%
評価性引当額	- %	0.02%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	- %	0.78%
住民税均等割額	- %	0.92%
抱合せ株式消滅差益	- %	9.79%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	- %	3.81%
その他	- %	0.10%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	- %	36.37%

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.69%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.01%、平成27年4月1日以降のものについては35.64%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が64百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が75百万円、その他有価証券評価差額金が10百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(共通支配下の取引等)

1 結合当事企業又は対象となった事業の名称及びその事業の内容、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要

(1) 結合当事企業又は対象となった事業の名称及び事業の内容

結合当事企業 (株)ヤシマ・エコ・システム

事業の内容 保守サービス事業(小工事を含む)を除く空調機器製品等の販売・工事業

(2) 企業結合日(吸収分割の効力発生日)

平成23年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社の完全子会社である(株)ヤシマ・エコ・システムを分割会社とし、当社を承継会社とする吸収分割

(4) 結合後企業の名称

八洲電機(株)

(5) 取引の目的を含む取引の概要

当社グループは相乗効果による競争力の強化・収益機会の増大、業務の効率化・集約化による経営資源の一元化を図るため、平成23年2月25日に当社の完全子会社である(株)ヤシマ・エコ・システムとの間で吸収分割契約を締結し、平成23年4月1日に(株)ヤシマ・エコ・システムを分割会社とし、当社を承継会社とする吸収分割を実施いたしました。

2 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引等として処理しております。

(資産除去債務関係)

前事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

資産除去債務の金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

当事業年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

資産除去債務の金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	545.50円	568.83円
1株当たり当期純利益金額	31.59円	64.04円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
当期純利益(百万円)	591	1,280
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	591	1,280
普通株式の期中平均株式数(千株)	18,728	19,987

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	10,477	12,389
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	10,477	12,389
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	19,206	21,781

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	(株)日立製作所	210,000	111
		(株)丸井グループ	99,000	68
		昭和電工(株)	302,868	56
		JFEホールディングス(株)	30,404	54
		ラサ商事(株)	100,000	49
		旭化成(株)	81,000	41
		北越紀州製紙(株)	75,000	41
		日油(株)	100,500	40
		東京急行電鉄(株)	100,000	39
		東京製鐵(株)	40,000	29
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	54,040	22
		日本精工(株)	29,000	18
		高砂熱学工業(株)	28,100	18
		(株)リコー	21,950	17
		大日本スクリーン製造(株)	21,701	16
		ダイダン(株)	31,500	16
		その他49銘柄	457,552	222
				小計
		計	1,782,618	863

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	1,453	229	12	1,671	1,231	36	439
機械及び装置	29	6	-	36	27	2	8
工具、器具及び備品	593	87	44	636	521	53	115
土地	403	176	70	509	-	-	509
有形固定資産計	2,479	500	127	2,852	1,779	93	1,073
無形固定資産							
ソフトウェア	519	39	-	558	452	110	106
ソフトウェア仮勘定	339	685	-	1,024	-	-	1,024
その他	10	-	-	10	-	-	10
無形固定資産計	868	724	-	1,593	452	110	1,140
長期前払費用	1	-	1	-	-	0	-

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

ソフトウェア仮勘定 統合基幹系業務ソフト 685百万円

2 なお、当期増加額には、株式会社ヤシマ・エコ・システムとの吸収分割により、建物218百万円、工具、器具及び備品15百万円、土地176百万円、ソフトウェア0百万円の増加額を含んでおります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	105	96	-	2	199
賞与引当金	368	448	368	-	448

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、洗替えによるものです。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	6
預金	
当座預金	5,987
普通預金	834
別段預金	0
計	6,822
合計	6,828

受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)伊藤製鐵所	201
西華産業(株)	196
高砂熱学工業(株)	190
新菱冷熱工業(株)	98
(株)島津理化	95
その他	1,808
合計	2,590

期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成24年4月満期	591
平成24年5月満期	903
平成24年6月満期	583
平成24年7月満期	432
平成24年8月満期	78
平成24年9月満期	1
合計	2,590

売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
任天堂(株)	2,235
JFEスチール(株)	1,399
みずほ信託銀行(株)	972
日新製鋼(株)	765
(株)関電工	711
その他	15,933
合計	22,018

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日) $\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	
18,777	74,680	71,439	22,018	76.4	100.0

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

商品

セグメントの名称	金額(百万円)
システム・ソリューション事業	2,556
電子デバイス・コンポーネント事業	1,168
合計	3,724

未成工事支出金

セグメントの名称	金額(百万円)
システム・ソリューション事業	156
合計	156

未収入金

相手先	金額(百万円)
防衛省	1,968
(株)NTTファシリティーズ	732
国土交通省	509
西華産業(株)	338
ユニバーサル特機(株)	200
その他	390
合計	4,138

買掛金

相手先	金額(百万円)
(株)日立製作所	9,083
日立アプライアンス(株)	2,165
(株)日立ディスプレイズ	1,842
(株)日立産機システム	1,101
(株)日立プラントテクノロジー	732
その他	7,347
合計	22,273

未払金

相手先	金額(百万円)
(株)日立製作所	3,905
日立アプライアンス(株)	738
富士ソフト(株)	407
(株)日立ビルシステム	102
(株)日立プラントテクノロジー	88
その他	497
合計	5,739

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 - 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告は、電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 なお、電子公告は当社のホームページ(http://www.yashimadenki.co.jp)に掲載しております。
株主に対する特典	9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された1単元(100株)以上を保有されている株主に対し、1,000円相当の商品又は寄付のいずれか1つをお選びいただきます。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- 募集株式又は募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第67期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) 平成23年6月28日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月28日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第68期第1四半期(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日) 平成23年8月10日関東財務局長に提出。

第68期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日) 平成23年11月11日関東財務局長に提出。

第68期第3四半期(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日) 平成24年2月10日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書 平成23年6月29日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号(主要株主の異動)の規定に基づく臨時報告書 平成23年12月12日関東財務局長に提出。

(5) 有価証券届出書(一般募集による増資、引受人の買取引受による売出し、オーバーアロットメントによる売出し)及びその添付書類

平成23年11月18日関東財務局長に提出。

(6) 有価証券届出書(第三者割当増資)及びその添付書類

平成23年11月18日関東財務局長に提出。

(7) 有価証券届出書の訂正届出書

訂正届出書(上記(5) 有価証券届出書の訂正届出書) 平成23年11月29日関東財務局長に提出。

(8) 有価証券届出書の訂正届出書

訂正届出書(上記(6) 有価証券届出書の訂正届出書) 平成23年11月29日関東財務局長に提出。

(9) 有価証券届出書の訂正届出書

訂正届出書(上記(6) 有価証券届出書の訂正届出書) 平成23年12月12日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月27日

八洲電機株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平井 清

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 栗原 幸夫

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている八洲電機株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、八洲電機株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、八洲電機株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、八洲電機株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月27日

八洲電機株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平井 清

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 栗原 幸夫

当監査法人は、金融商品取引法第193条の第2項第1号の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている八洲電機株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第68期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、八洲電機株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。